日本語 DECwindows Motif for OpenVMS 操作ガイド

AA-PQGXB-TE

1994 年 6 月

本書では、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS の概要と操作方法、およびアプリケーションの概略について記述してあります。

オペレーティング・システム：日本語 OpenVMS VAX V6.0
日本語 OpenVMS AXP V1.5

ソフトウェア・バージョン： 日本語 DECwindows Motif for OpenVMS V1.2

コンパックコンピュータ株式会社

1994年6月

本書の著作権はコンパックコンピュータ株式会社が保有しており、本書中の解説および図、表はコンパックの文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、コンパックは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア(対象ソフトウェア)は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

© Compaq Computer Corporation 1994.

All Rights Reserved.

Printed in Japan.

以下は米国 Digital Equipment Corporation の商標です。

Bookreader, CDA, DEC, DECnet, DECwindows, DECwrite, Digital, LinkWorks, LiveLink, LN03, MicroVAX, PrintServer, ReGIS, ULTRIX, VAX, VAXcluster, VAXserver, VAXstation, VMS, VT, XUI および DIGITAL ロゴ

以下は他社の商標です。

Motif は Open Software Foundation 社の商標です。

PostScript は Adobe Systems 社の登録商標です。

目次

まえがき	ix
1 はじめに	
1.1 ウィンドウとは？	1-1
1.2 DECwindows での対話	1-1
1.3 DECwindows の構成要素	1-2
2 DECwindows の使い方	
2.1 マウスの使い方	2-1
2.1.1 マウスの基本操作	2-2
2.2 セッションの起動	2-3
2.3 セッション・マネージャのメニュー・バーの使い方	2-3
2.4 ヘルプの使い方	2-4
2.4.1 ヘルプの起動	2-4
2.4.2 ヘルプ中での移動	2-6
2.4.3 ヘルプ中のトピック・タイトルの一覧	2-6
2.4.4 ヘルプの終了	2-7
2.5 メニュー操作	2-7
2.5.1 メニューの選択	2-8
2.5.2 プルダウン・メニューからの項目の選択	2-8
2.5.3 ポップアップ・メニューからの項目の選択	2-9
2.5.4 オプション・メニューからの項目の選択	2-10
2.5.5 サブメニューからの項目の選択	2-11
2.6 ウィンドウの管理	2-12
2.6.1 ウィンドウの構成要素	2-12
2.6.2 ウィンドウをアクティブにする	2-14
2.6.3 ウィンドウの移動	2-14
2.6.4 ウィンドウのサイズ変更	2-15
2.6.5 ウィンドウの最小化	2-15
2.6.6 アイコンのウィンドウへの復元	2-16
2.6.7 ウィンドウの最大化	2-16
2.6.8 最大化されたウィンドウの復元	2-16
2.6.9 新しいウィンドウ管理方法	2-17
2.6.10 ウィンドウの配置	2-17
2.7 ダイアログ・ボックスの操作	2-18
2.7.1 ダイアログ・ボックスでの情報の指定	2-18
2.7.2 ダイアログ・ボックス中での移動と設定値変更	2-20
2.7.3 設定値の保管	2-20
2.7.4 リスト・ボックスからの選択	2-21
2.7.5 ファイル選択ボックスの使用	2-21

2.8	スクロール	2-22
2.9	テキストの編集	2-23
2.9.1	テキストの選択	2-24
2.9.2	テキストの複写	2-24
2.9.3	ウィンドウ間でのテキストの移動	2-25
2.10	ドラッグ・ドロップ機能	2-26
2.10.1	ドラッグ・ドロップ機能の使用	2-26
2.11	ティア・オフ・メニューの使用	2-27
2.12	特殊文字の入力	2-27
2.13	ファイルの印刷	2-27
2.13.1	アプリケーションからのファイルの印刷	2-28
3	セッション・マネージャの使い方	
3.1	アプリケーションの実行	3-1
3.1.1	ファイルビューの作成	3-1
3.1.2	メッセージ・ウィンドウの作成	3-2
3.2	処理中の作業の監視	3-2
3.2.1	タスクの取り消し	3-3
3.3	セッションの休止	3-3
3.4	セッションの終了	3-3
3.5	DECwindows セッションのカスタマイズ	3-4
3.6	キーボード・タイプの変更	3-4
3.7	セッション言語の変更	3-6
3.8	入力スタイルの変更	3-6
4	ファイルビューの使い方	
4.1	ファイル・リストの更新	4-2
4.2	ファイルの選択と選別	4-3
4.2.1	ファイル・リストからのファイルの選択	4-3
4.2.2	隣接するファイルの選択	4-3
4.2.3	散在するファイルの選択	4-3
4.2.4	現在のディレクトリにあるすべてのファイルの選択	4-4
4.2.5	他のウィンドウにあるファイル名の選択	4-4
4.3	処理中の作業の監視	4-4
4.4	ファイル操作	4-4
4.5	ディレクトリ操作	4-5
4.6	ファイルビューのカスタマイズ	4-5

5	ハイパーアプリケーション機能	
5.1	簡単な例	5-1
5.2	ハイパーアプリケーション・オブジェクト	5-2
5.3	リンクの作成	5-3
5.4	リンクの追跡	5-3
5.5	強調表示の調整	5-6
6	DECwindows アプリケーション	
6.1	ブックリーダー	6-1
6.1.1	本のオープン	6-2
6.1.2	ナビゲーション・ウィンドウへのトピックの配置	6-3
6.1.3	トピックのオープン	6-4
6.1.4	その他の機能の概要	6-4
6.2	電卓	6-5
6.2.1	データの入力	6-5
6.2.2	その他の機能の概要	6-6
6.3	カレンダー	6-6
6.3.1	カレンダーの画面間の移動	6-6
6.3.2	予定の登録	6-7
6.3.3	その他の機能の概要	6-8
6.4	カード管理	6-8
6.4.1	カード・ファイルの作成/オープン	6-9
6.4.2	カードの作成	6-10
6.4.3	その他の機能の概要	6-10
6.5	CDA ビューア	6-11
6.5.1	ファイルの表示	6-12
6.5.2	サポートされるファイル・フォーマットの指定	6-12
6.5.3	その他の機能の概要	6-13
6.6	時計	6-13
6.6.1	その他の機能の概要	6-14
6.7	漢字端末エミュレータ	6-14
6.7.1	漢字端末エミュレータのオプションの概要	6-15
6.7.2	標準版と日本語版の相違	6-16
6.8	リンクワークス・マネージャ	6-17
6.8.1	環境ウィンドウの使い方	6-17
6.8.2	環境ウィンドウとリンクベース・ウィンドウの関係	6-18
6.8.3	リンクベース・ウィンドウの使い方	6-18
6.8.4	新しいリンクベースの作成	6-19
6.8.5	リンクベース・オブジェクトの作成	6-19
6.8.6	オブジェクトのハイパー情報環境への複写	6-20
6.8.7	バスの使い方	6-20
6.8.8	バスの追跡	6-21
6.8.9	その他の機能の概要	6-22
6.9	電子メール	6-22
6.9.1	メイン・ウィンドウ	6-23
6.9.2	ドロアとフォルダ	6-23
6.9.3	メッセージの作成	6-23

6.9.4	メッセージの送信	6-25
6.9.5	メッセージの選択	6-25
6.9.6	メッセージの表示	6-25
6.9.7	新しいメッセージの表示	6-25
6.9.8	古いメッセージの表示	6-26
6.9.9	その他の機能の概要	6-26
6.10	ノートパッド	6-27
6.10.1	ジャーナル・ファイルの使用	6-28
6.11	ペイント	6-28
6.11.1	ツールの種類と選択	6-29
6.11.2	絵の保管	6-31
6.11.3	その他の機能の概要	6-31
6.12	画面印刷	6-32
6.12.1	画面全体の撮り方	6-33
6.12.2	その他の機能の概要	6-33
6.13	パズル	6-33
6.13.1	パズルの遊び方	6-34

A 日本語入力機能

A.1	DEC 日本語入力サーバの使い方	A-2
A.1.1	日本語入力サーバ	A-2
A.1.2	DEC 日本語入力サーバによる日本語入力	A-2
A.1.3	DEC 日本語入力サーバの設定	A-3
A.1.4	入力スタイル	A-4
A.1.5	over-the-spot 入力スタイル使用時の注意	A-4
A.2	日本語入力の変換キー	A-6
A.2.1	変換キー定義の変更	A-12
A.3	変換規則	A-13
A.3.1	ローマ字かな変換対応表	A-14
A.3.2	特殊文字変換対応表	A-15
A.3.3	記号変換対応表	A-15
A.3.4	コード入力	A-16
A.4	キーボードの「カナモード」の使用	A-17
A.5	新しい日本語キーボードのサポート	A-18
A.6	PCXAJ-AA キーボードでのキーの合成	A-19

索引

図

2-1	セッション・マネージャのメニュー・バー	2-3
2-2	概要トピック	2-5
2-3	プルダウン・メニュー	2-9
2-4	ポップアップ・メニュー	2-10
2-5	オプション・メニュー	2-11

2-6	サブメニュー	2-12
2-7	ウィンドウの構成要素	2-13
2-8	ウィンドウ・メニュー	2-17
2-9	ルート・メニュー	2-17
2-10	ダイアログ・ボックス	2-19
2-11	リスト・ボックス	2-21
2-12	ファイル選択ボックス	2-22
3-1	「処理中」ダイアログ・ボックス	3-2
3-2	セッション終了時のダイアログ・ボックス	3-4
3-3	「キーボードの設定」ダイアログ・ボックス	3-5
3-4	「言語の設定」ダイアログ・ボックス	3-6
3-5	「入力サーバ・オプション」ダイアログ・ボックス	3-7
4-1	ファイルビュー	4-1
5-1	「リンク」メニュー	5-2
5-2	「リンク」ダイアログ・ボックス	5-5
6-1	ブックリーダーのライブラリ・ウィンドウ	6-2
6-2	ブックリーダーのナビゲーション・ウィンドウ	6-3
6-3	ブックリーダーのトピック・ウィンドウ	6-4
6-4	電卓	6-5
6-5	カレンダーの月表示	6-6
6-6	カレンダーの日表示	6-7
6-7	「カード管理」ウィンドウ	6-9
6-8	CDA ビューアのウィンドウ	6-11
6-9	時計	6-13
6-10	漢字端末エミュレータのウィンドウ	6-15
6-11	環境ウィンドウ	6-17
6-12	リンクベース・ウィンドウ	6-19
6-13	電子メールのメイン・ウィンドウ	6-22
6-14	「メッセージ作成」ウィンドウ	6-24
6-15	「メッセージ表示」ウィンドウ	6-26
6-16	「ペイント」ウィンドウ	6-29
6-17	「画面印刷」ウィンドウ	6-32
6-18	「パズル」ウィンドウ	6-34

表

2-1	ドラッグ・ドロップ機能がサポートされているウィジェット	2-26
A-1	日本語入力の変換機能	A-1
A-2	JVMS 変換キー定義	A-7
A-3	EVEJ 変換キー定義	A-8
A-4	KEYPAD 変換キー定義	A-9
A-5	TARO 変換キー定義	A-10
A-6	CTRL 変換キー定義	A-11
A-7	新しい日本語キーボードのキーボード・タイプ	A-18
A-8	新しい日本語キーボードの変換キー定義	A-19
A-9	PCXAJ-AA と PCXAL-AA でのキー合成の違い	A-19

本書の目的

本書は、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS を紹介することを目的としています。

本書内では、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS のヘルプを参照しています。

対象読者

本書は、初めて DECwindows を使用するユーザと DECwindows の使用経験があるユーザを対象としています。

初めて DECwindows をご使用になる方のために、本書では DECwindows の操作方法と機能について説明してあります。

また、DECwindows をよくご存知の方は、Motif インターフェイスに関する情報が載っていますのでお役立てください。

本書の構成

本書は、以下の 6 つの作業ごとの章と 1 つの付録から構成されています。

第 1 章では、DECwindows について紹介し、DECwindows インターフェイスの主な構成要素について説明します。

第 2 章では、メニューの動かし方やウィンドウの管理方法などの基本的な DECwindows の作業について説明します。

第 3 章では、セッション・マネージャを使用してアプリケーションを実行したり、セッションを終了する方法を解説します。

第 4 章では、OpenVMS ディレクトリ構造を図で表現したファイルビューの使い方を説明します。

第 5 章では、ハイパーアプリケーションを使用して、情報をリンクしたりリンクをたどったりする方法を説明します。

第 6 章では、DECwindows アプリケーションの使い方について説明します。

付録 A では、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS で提供する日本語入力機能について説明します。

本書で使用される表記法

本書では、次のような規則を使用します。

マウス	マウスは、マウス、ブック、スタイラスなどのポインティング装置を指します。
MB1 (選択) MB2 (ドラッグ) MB3 (メニュー)	MB1 は左マウス・ボタンを、MB2 は中央マウス・ボタンを、MB3 は右マウス・ボタンを示します。(各ボタンはユーザが再定義できます。)
<code>Ctrl+x</code>	<code>Ctrl+x</code> などのシーケンスは、 <code>Ctrl</code> キーを押しながら、別のキーまたはポインティング装置のボタンを押すことを示します。
<code>PF1 x</code>	<code>PF1 x</code> などのシーケンスは、 <code>PF1</code> キーを押してから離し、その後で別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押して離すことを示しています。
<code>Return</code>	四角形で囲まれたキー名はキーボード上の該当するキーを押すことを示します。
太字	太字のテキストは、新しい用語を紹介するとき、または引数、属性、条件の名前に使用します。

はじめに

DECwindows は、OpenVMS オペレーティング・システムへのインターフェイスで、ワークステーションの画面をいくつかのウィンドウに分割したり、目的に合わせて作業環境を構築したりできます。

DECwindows では、1つの画面上で複数のアプリケーションを同時に実行したり、それを切り替えたりできます。すなわち、あるウィンドウでプログラムを実行しながら、別のウィンドウでメッセージをメールし、さらに別のウィンドウでメモを作成したりすることができます。

1.1 ウィンドウとは？

ワークステーションの画面は、机の上に紙を重ねて置いてある状態と考えることができます。一部の紙を左右に動かしたり、紙を重ねる順番を変えたりすることができます。

DECwindows では、作業を行うこれらの紙をウィンドウと呼びます。ウィンドウとは、アプリケーションの全体またはその一部を表すワークステーション画面上の領域のことです。たとえば、ウィンドウを1つオープンしてブックリーダを表示すると、このウィンドウでオンライン・ドキュメントを読むことができます。この他のウィンドウとしては、電子メールを送受信できる電子メール、VT382 漢字端末と同様の外観と機能をもつ漢字端末エミュレータなどのアプリケーションがあります。

ウィンドウの移動、サイズ変更および調整の詳細は第2章を参照してください。

1.2 DECwindows での対話

DECwindows 環境では、すべてのアプリケーションが同じような外観をもち、同じように応答します。したがって、同じ方法でそれぞれのアプリケーションと対話することができます。DECwindows アプリケーションでの作業には、ポインティング装置であるマウスとキーボードを使用します。DECwindows との対話方法に関する詳細は、第2章を参照してください。

1.3 DECwindows の構成要素

DECwindows には特殊な作業を行うためのいくつかの構成要素があります。以下に、基本的な DECwindows の構成要素を示します。

- ルート・ウィンドウは、ワークステーション上の画面で、DECwindows 環境の背景となります。すべてのウィンドウとオブジェクトがルート・ウィンドウ上に現れます。
- ウィンドウ・マネージャは、ルート・ウィンドウ上のウィンドウの大きさ、位置、動作を制御します。ウィンドウ・マネージャは、ウィンドウを管理するためのメニュー（ルート・メニューとウィンドウ・メニュー）を提供します。ウィンドウ・メニューとルート・メニューに関する詳細は、第 2.6.9 項を参照してください。
- セッション・マネージャは、DECwindows セッションの体裁を制御する際に役立ちます。これを使用すると、DECwindows アプリケーションを起動したり、キーボードの特性やセッション言語などのワークステーションの設定値を調整できます。セッション・マネージャに関する詳細は、第 3 章を参照してください。
- ファイルビューは、OpenVMS オペレーティング・システムへのグラフィック・インターフェイスで、ファイルやディレクトリを操作するコマンドを提供します。ファイルビューに関する詳細は、第 4 章を参照してください。
- DECwindows アプリケーションは、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS に標準で装備している一連のアプリケーションです。アプリケーションの種類とその使い方については、第 6 章を参照してください。

DECwindows の使い方

この章では、DECwindows を使用する際に必要な以下の基本的な操作について説明します。

- マウスの使い方
- DECwindows セッションの起動方法
- ヘルプの参照方法
- メニューとウィンドウでの作業方法
- テキストの編集方法
- ドラッグ・ドロップ
- ティア・オフ・メニュー
- ファイルの印刷方法

2.1 マウスの使い方

従来のコンピュータでは、画面と会話するために、テキストを入力したりキーボード・キーを押したりしなくてはなりませんでした。DECwindows では、マウスがあれば、画面上のオブジェクトを指して、マウス・ボタンをクリックするだけで操作できます。マウスを使用すると、メニューからのコマンドの選択、ウィンドウの拡大/縮小、画面上でのウィンドウの再配置を行うことができます。

マウスには3つボタンがあります。MB1（“マウス・ボタン1”と呼びます）が左側に、MB2 が中央に、MB3 が右側にあります。普通は、MB1 を使用してアプリケーションと会話します。このボタン配置は右利きのユーザ用です。このボタン配置は左利き用に変更することができます。マウス・ボタンの設定の変更については、セッション・マネージャのヘルプを参照してください。

2.1 マウスの使い方

マウスで作業する際は、マウスとワークステーションとを接続しているケーブルがワークステーション側を向くようにします。マウスは、平らな面に置いてください。マウスを動かしながら画面を見ると、マウスの動きに合わせて画面上のポインタが同じように動くことがわかります。マウスを操作するための机上のスペースが足りない場合は、マウスを少し持ち上げて、もっとスペースのあるところに置き直します。マウスを持ち上げている間はポインタは動きません。

通常、ポインタは矢印のような形をしていますが、アプリケーションの状態を反映して形が変わります。たとえば、若干時間のかかるタスクの実行中は、ポインタが砂時計や腕時計の形になります。

2.1.1 マウスの基本操作

以下のマウスの基本操作をマスターすれば、DECwindows のどのようなアプリケーションでも操作することができます。

- 指す（ポイント）：マウスを使用して、ポインタを次の動作を行いたい場所に移動します。
- クリック：MB1 を素早く押して離します。押し方が弱すぎないようにしてください。
- 押す（プレス）：メニュー名、スクロール・バーのステップ矢印、または動作を行いたい場所を指して、マウスを動かさずに、MB1 を押し続けます。
- ドラッグ：MB1（またはMB2）を押し続けながらポインタを動かして、MB1（またはMB2）を離します。
- ダブルクリック：オブジェクトを指して、MB1 を続けて2回クリックします（たとえば、ファイル名を選択して、「了解」ボタンをクリックしてファイルをオープンする際は、簡略手段としてリスト・ボックス中のファイル名をダブルクリックすればよい）。
- シフト・クリック：オブジェクトを指して、**[Shift]**キーを押しながらMB1 をクリックした後、**[Shift]**キーを離します。

- ドラッグ・ドロップ: ドラッグ・ドロップ機能に関する情報については、この章の後半にある第 2.10 節を参照してください。

2.2 セッションの起動

システム・スタートアップ・プロシージャが正しく実行されると、セッション・マネージャの「セッション起動」画面が表示されます。

セッションを起動するには、次のようにします。

1. ユーザ名を入力する。
2. 「パスワード」入力領域を指して MB1 をクリックし、「パスワード」入力領域を選択する。
3. パスワードを入力する。
パスワードを秘密にしておくため、入力した文字は画面上には表示されません。
4. ユーザ名とパスワードを正しく入力したら、「了解」ボタンをクリックするか、`[Return]`キーを押す。

間違った情報を入力したり入力ミスをした場合は、それを訂正しないと、セッションは起動されません。その際は、間違った情報があることを警告するダイアログ・ボックスが表示されます。

メッセージを確認してから、`[Return]`キーを押すか、「了解」ボタンをクリックします。そして、情報を再入力してから`[Return]`キーを押します。

2.3 セッション・マネージャのメニュー・バーの使い方

正しいユーザ情報を入力すると、セッションが起動されます。図 2-1 に示すようなセッション・マネージャのメニュー・バーが表示されます。

図 2-1 セッション・マネージャのメニュー・バー

セッション・マネージャのメニュー・バーは、DECwindows セッションが起動されるたびに画面上に表示されます。メニュー・バーには、「セッション」、「オプション」、「アプリケーション」、「ヘルプ」メニューが示されます。セッション・マネージャの使い方に関する詳細は、第 3 章およびセッション・マネージャのヘルプを参照してください。

2.4 ヘルプの使い方

「ヘルプ」メニューを使うと、DECwindows のどのようなアプリケーションからでもヘルプを参照することができます。ヘルプからは、画面上のオブジェクト、概念、システム・メッセージ、アプリケーションで実行可能なタスクについての簡単な情報が得られます。

ヘルプは、アプリケーションに関する一般的な情報が得られ、同時に、知りたい内容を素早く検索できます。ヘルプでは以下のことができます。

- ヘルプ・トピックを素早く動かします。ヘルプは、これまで特定のトピックに到達するために行ってきた経路をたどり続けます。これによって、再びこれまでの手順をたどり直して、別の経路を追跡することが容易になります。
- アプリケーションに対するヘルプ・トピック全部の一覧を表示します。

2.4.1 ヘルプの起動

アプリケーションのタスクに関するヘルプを得るには、アプリケーションの「ヘルプ」メニューから「概要」を選びます。メニューの使い方についての詳細は、第 2.5 節を参照してください。

「ヘルプ」ウィンドウが開き、一緒に「概要」トピックが表示されます。これに加えて、「ブックリーダー」ライブラリ・ウィンドウがアイコンとして現われます。「概要」トピックには、共通の操作をどのように実行するかを説明した追加トピックの一覧が含まれます。図 2-2 は、「ファイルビュー」の「概要」トピックを示します。

図 2-2 概要トピック

- ヘルプ・トピックでは、ヘルプを要求したタスクまたはオブジェクトについて記述します。テキストがヘルプのテキスト領域に収まらないときには、スクロール・バーが現れます。「画面」ボタンを使用してウィンドウをスクロールすることもできます。
- 追加トピックの一覧には、関連するトピックがある場合に、そのトピックの一覧が表示されます。これらのトピックを選択するには、目的のトピックを指して、MB1 をダブルクリックします。
- Help ウィジェットのヘルプ・ボタンとして「戻る」と「終了」があります。「戻る」ボタンで1つ前に参照していたヘルプ・トピックを表示し、「終了」ボタンでヘルプを終了します。

著作権などのアプリケーションに関する製品情報を表示するには、アプリケーションの「ヘルプ」メニューから「製品情報」を選択します。

アプリケーションのメニュー名、スクロール・バー、システム・メッセージ、ダイアログ・ボックスなどの画面上のオブジェクトについてのヘルプを得るには、次のようにします。

1. アプリケーションの「ヘルプ」メニューから「状況依存ヘルプ」を選ぶ。
ポインタが疑問符(?)の形に変わります。
2. 画面上のオブジェクトでMB1 をクリックする。

2.4 ヘルプの使い方

ヘルプ・ウィンドウがオープンされ、指定したオブジェクトに関する情報が表示されます。

ヘルプの使い方に関する詳細を知りたい方は、それぞれのアプリケーションのヘルプ・ウィンドウの「ヘルプ」メニューから「ヘルプの使用」を選択してください。

2.4.2 ヘルプ中での移動

「概要」ウィンドウにある追加トピックの一覧からトピックを選択した場合は、追加トピックを選択し続けるか、再び手順をたどり直して別のトピックに分岐することによって、トピックの経路を追跡することができます。「概要」トピックにもどって、別の経路をたどることもできます。

追加トピックを表示する場合は、トピックのMB1をダブルクリックします。「ヘルプ」が選択したトピックを表示します。追加トピックの一覧から別のトピックを選択することもできますし、「戻る」ボタンをクリックすれば、1つ前に見たトピックを再表示することもできます。

「トピック」ボタンを使用して、アプリケーションのヘルプ・トピック全部を順次表示することができます。右側の矢印をクリックすると次のトピックが表示され、左側の矢印をクリックすると前のトピックが表示されます。

現在のトピックと新しいトピックを同時に表示するには、次のようにします。

1. 追加トピックの一覧から別のトピックを選択する。
2. 「ファイル」メニューの「新しいウィンドウ」の中から「トピック表示」を選択する。

こうすると、現在のヘルプ・トピックが新しいトピックに置き換わずに、別のヘルプ・ウィンドウがオープンされて、新しいトピックについての情報が表示されます。また、現在のトピックをオープンしたまま、新しいヘルプ・ウィンドウからさらに別のトピックを表示することもできます。

トピックを調べ終わりヘルプ・ウィンドウをクローズしたい場合は、「終了」ボタンをクリックします。「概要」トピックにもどるには、アプリケーションの「ヘルプ」メニューから「概要」を選択します。

2.4.3 ヘルプ中のトピック・タイトルの一覧

アプリケーションのヘルプ・トピック全部の一覧を表示することができます。この機能により、アプリケーションで利用できるすべてのヘルプの概要を知ることができます。

この一覧を表示するには、「ヘルプ」ウィンドウの「ファイル」メニューから「ナビゲーション・ウィンドウをオープン」を選択します。ヘルプがヘルプのトピック・タイトルの短い一覧を含んだウィンドウを表示します。

この一覧を開いてトピック・タイトルを表示するには、次のようにします。

1. 一覧の最初のトピック・タイトルでMB1をクリックして、それを選択する。
2. 「表示」メニューから「開く」を選択する。

利用可能なすべてのトピック・タイトルが表示されます。

この一覧からトピックを表示するには、トピック・タイトルでMB1をダブルクリックします。ヘルプによって、表示されている「ヘルプ」ウィンドウにトピックが表示されます。

2.4.4 ヘルプの終了

ヘルプを終了するには、「終了」ボタンをクリックします。複数のヘルプ・ウィンドウをオープンしている場合は、1つずつクローズしなければなりません。

2.5 メニュー操作

メニューには、何をしたいのか、すなわち、どのような操作をしたいのかをDECwindowsに知らせる項目が含まれています。DECwindowsと会話するには、メニューを選択してから、そのメニューからメニュー項目を選択します。アプリケーションで使用できるメニュー名は、メニュー・バーに表示されます。

DECwindowsは、次の3つのタイプのメニューを提供しています。

- プルダウン・メニュー
- ポップアップ・メニュー
- オプション・メニュー

それぞれのタイプのメニューには、サブメニューをもつものがあります。メニュー項目の右側の右向き三角矢印は、そのメニュー項目を選択すると、サブメニューが表示されることを示しています。

メニュー項目の後に続く3つのピリオド(...)は、該当するメニュー項目を選択するとダイアログ・ボックスが表示されることを示します。

以下の項では、メニューとサブメニューの操作方法について説明します。

2.5 メニュー操作

2.5.1 メニューの選択

メニューを選択するには次のようにします。

1. メニュー・バーで、表示させたいメニュー名を指す。
2. MB1 をクリックする。

そのメニュー名が強調表示され、そのメニューのメニュー項目が表示されます。
このメニュー項目の一覧をプルダウン・メニューと呼びます。

メニュー名のところで MB1 をクリックすると、メニュー項目を選択するか、メニュー以外のところで MB1 をクリックするまで、そのメニューが表示されたままになります。

注意

メニューは、アクセレータとニーモニックというキーボードを使った2つの方法で素早く操作することができます。

アクセレータとは、メニュー内の機能を実行するために使用するキーボード上のキーのことです。アクセレータは、利用できる場合だけ、メニュー項目の右側に表示されます。

ニーモニックとは、メニュー名あるいはメニュー項目に表示される下線付きの英文字のことです。ニーモニックを使用すると、キーボード上の英文字を入力することによって、メニューを表示したりタスクを実行したりすることができます。

ニーモニックを使用してメニューを表示するには、**[Alt]**を押しながら目的のニーモニックの英文字のキーを押します。ニーモニックを使用してメニュー項目を選択するには、**[Shift]**を押しながら対応するニーモニックの英文字のキーを押します。

2.5.2 プルダウン・メニューからの項目の選択

プルダウン・メニューには、コマンドが入っているものもあれば、作業項目がリストされているものもあります。図 2-3 は、プルダウン・メニューの一例です。

図 2-3 プルダウン・メニュー

プルダウン・メニューから項目を選択するには、次のようにします。

1. メニュー・バーで表示したいメニュー名を指す。
2. MB1 を押し続ける。
3. MB1 を押しながら、目的のメニュー項目までドラッグする。
4. MB1 を離す。

プルダウン・メニューから項目を選択しない場合は、ポインタをメニューの外にドラッグしてから、MB1 を離します。メニューが消えて、処理は何も行われません。

注意

電子メールなどのアプリケーションには、メニュー項目の内の使用頻度の高いコマンドと同じ機能を持つ長方形のプッシュ・ボタンがあります。プッシュ・ボタンは、普通は、アプリケーションの作業領域（アプリケーションのテキストとグラフィックスが表示される場所）の下にあります。このようなコマンドをすぐに実行するには、プッシュ・ボタンの上で MB1 をクリックします。

2.5.3 ポップアップ・メニューからの項目の選択

DECwindows には、アプリケーションのコマンドや機能にすぐにしかも直接アクセスして、ファイルやアプリケーションでの操作を簡単にするポップアップ・メニューがあります。ポップアップ・メニューは、プルダウン・メニューで使用可能なコマンドと同じ機能を持っています。ポインタをメニュー・バーまで移動しなければならないプルダウン・メニューとは異なり、ポップアップ・メニューはアプリケーション

2.5 メニュー操作

の作業領域のどこでも表示できます。図 2-4 は、ポップアップ・メニューの一例です。

図 2-4 ポップアップ・メニュー

ポップアップ・メニューから項目を選択するには、次のようにします。

1. アプリケーションの作業領域で MB3 を押し続ける。
2. 目的のメニュー項目までドラッグする。
3. MB3 を離す。

ポップアップ・メニューから項目を選択しない場合は、ポインタをメニューの外にドラッグしてから、MB3 を離します。メニューが消えて、処理は何も行われません。

2.5.4 オプション・メニューからの項目の選択

オプション・メニューは、ダイアログ・ボックスに現れるポップアップ・メニューです。オプション・メニューを使用すると、多数のオプションの中から 1 つを選択することができます。ダイアログ・ボックスには、現在選択されている 1 つのオプションしか表示されないため、選択できる他のオプションを見るには、オプション・メニューを表示します。図 2-5 に、カレンダーの「一般」ダイアログ・ボックスの「週の始まる日」オプション・メニューを示します。

図 2-5 オプション・メニュー

オプション・メニューから項目を選択するには、次のようにします。

1. 現在のオプションの上で MB1 を押し続ける。

オプション・メニューが表示されます。

2. 目的のメニュー項目までドラッグする。

3. MB1 を離す。

オプション・メニューは消え、選択したオプションが現在のオプションになります。

元のオプションを変更しない場合は、ポインタをメニューの外までドラッグして、MB1 を離します。メニューが消えて、オプションは変更されません。

2.5.5 サブメニューからの項目の選択

サブメニュー・アイコン（右向きの矢印）をもつメニュー項目は、対応するサブメニューがあることを示しています。メニュー項目を選択すると、サブメニューが表示されるので、サブメニューからメニュー項目を選択します。図 2-6 は、サブメニューの一例です。

図 2-6 サブメニュー

サブメニューを表示して、そこからメニュー項目を選択するには、次のようにします。

1. アプリケーションのメニュー・バーの上で MB1 を押し続けて、プルダウン・メニューを表示させる。
2. 目的のメニュー項目までドラッグする。
3. メニュー項目の次にサブメニューがある場合には、そのメニューの右側にサブメニューが表示されます。
4. サブメニュー内の選択したいメニュー項目までドラッグする。
5. MB1 を離す。

2.6 ウィンドウの管理

DECwindows を使用して作業する際は、ウィンドウを 1 つだけオープンすることも、同時に複数のウィンドウをオープンすることもできます。複数のウィンドウを使用すると、多数のアプリケーション間を切り替えながら操作できます。この節では、ウィンドウの基本的な特性を説明するとともに、ウィンドウの移動、サイズ変更、配置のしかたについても解説します。

2.6.1 ウィンドウの構成要素

ほとんどのウィンドウは、図 2-7 のような構成要素からなっています。

- ウィンドウ枠はウィンドウを取り囲むもので、通常は、サイズ変更枠、タイトル・バー、ウィンドウ・メニュー・ボタン、最小化ボタン、最大化ボタンから構成されています。

図 2-7 ウィンドウの構成要素

- サイズ変更枠は、アプリケーション・ウィンドウを取り囲むもので、これによって、アプリケーションのウィンドウのサイズを変更します。
- タイトル・バーには、アプリケーション名が示され、画面表示を再配置する際に使用するウィンドウ管理ボタンがついています。タイトル・バーはほとんどのウィンドウにあります。
- ウィンドウ・タイトルは、ウィンドウの機能を示しています。メイン・ウィンドウの場合は、一般にアプリケーション名が入っています。ダイアログ・ボックスの場合は、そのウィンドウの使い方に関する情報が入っています。
- ウィンドウ・メニュー・ボタンはウィンドウ・メニューを表示する際に使用します。ウィンドウ・メニューには、ウィンドウを操作する際に必要なメニュー項目が入っています。ウィンドウ・メニューに関する詳細は、第 2.6.9 項を参照してください。
- 最小化ボタンは、ウィンドウをルート・ウィンドウ上のアイコンに縮小する際に使用します。アイコンとは、通常はアプリケーションであるオブジェクトを小さく図示したものです。
- 最大化ボタンは、ウィンドウのサイズを画面いっぱいのサイズまで拡大する際に使用します。
- メニュー・バーには、アプリケーション操作時に選択できるメニュー名が示されます。

2.6 ウィンドウの管理

- クライアントまたは作業領域とは、アプリケーションと会話する際に使用するウィンドウの領域をいいます。
- スクロール・バーがアプリケーションのウィンドウによっては表示されます。スクロール操作に関する詳細は、第 2.8 節で説明されています。
- マットは、ウィンドウ枠と作業領域間の省略できる装飾的な境界です。

2.6.2 ウィンドウをアクティブにする

2つ以上のウィンドウをオープンしている場合は、選択するコマンドや入力テキストが正しい場所で終了するように、現在どのウィンドウを操作しているかを DECwindows に知らせなければなりません。操作しようとするウィンドウを知らせるには、目的のウィンドウをアクティブにするか、目的のウィンドウを入力フォーカスにします。

ウィンドウをアクティブにすると、省略時の設定では、目的のウィンドウが相互に重なり合うウィンドウ・スタックの前面に移動して、そのウィンドウ枠が強調表示されます。入力するキー操作はすべてこのウィンドウに対して行なわれます。別のウィンドウをアクティブにすると、新しいウィンドウが入力フォーカスになります。入力フォーカスをもてるのは、一度に1つのウィンドウだけです。

ウィンドウをアクティブにするには、次のようにします。

1. ウィンドウまたはウィンドウ枠中の任意の場所を指す。
2. MB1 をクリックする。

2.6.3 ウィンドウの移動

あるウィンドウが他のウィンドウを部分的に隠している場合は、各ウィンドウが完全に見えるように配置するとよいでしょう。ウィンドウを移動するには、次のようにします。

1. ウィンドウのタイトル・バーの中（ボタン上は除く）にポインタを置く。
2. MB1 を押し続ける。
ウィンドウの枠が現れます。
3. ウィンドウの枠を新しい位置までドラッグする。
4. MB1 を離す。

ウィンドウが他のウィンドウによって部分的に隠されていた場合は、省略時の設定では、目的のウィンドウがウィンドウの重なり前面に移動して、入力フォーカスになります。

2.6.4 ウィンドウのサイズ変更

ウィンドウを大きくして、その中のすべてを見たい場合もあれば、複数のアプリケーションを同時に実行するときのように、いくつかの小さいウィンドウを操作したい場合もあります。このように、自分の目的に合わせてウィンドウのサイズを変更するには、サイズ変更枠を使用します。

ウィンドウのサイズを変更するには、次のようにします。

1. ウィンドウのサイズ変更枠のいずれかにポインタを置く。

ポインタがサイズ変更カーソルに変わります。サイズ変更操作は、選択する辺または角によって制限されます。

2. MB1 を押し続ける。
3. サイズ変更カーソルを目的のサイズになるまでドラッグする。

ウィンドウを大きくするには、サイズ変更カーソルをウィンドウ枠を超えてドラッグします。ウィンドウを小さくするには、サイズ変更カーソルをウィンドウ枠内でドラッグします。ウィンドウの大きさが最小限になると、枠は動かなくなります。

4. MB1 を離す。

操作を取り消すには、エスケープ・キー（または F1）を押します。

2.6.5 ウィンドウの最小化

複数のアプリケーションを同時に実行している場合は、ウィンドウを最小化（アイコン化）すれば、別のアプリケーションの実行用に画面上のスペースを確保することができます。

ウィンドウを最小化しても、そのアプリケーションの実行は継続され、簡単にアクセスできます。アプリケーションをアイコンとして格納している際も、すべてのプロセスの実行は続けられます。

2.6 ウィンドウの管理

ウィンドウを最小化するには、次のようにします。

1. ウィンドウの最小化ボタンを指す。
2. MB1 をクリックする。

ウィンドウがクローズして、そのアイコンがルート・ウィンドウに現れます。

2.6.6 アイコンのウィンドウへの復元

アイコンを復元するには、そのアプリケーションのウィンドウをオープンします。省略時の設定では、複数のウィンドウをオープンしている際にアイコンをウィンドウに復元すると、相互に重なり合うウィンドウ・スタックの前面に新しいウィンドウが置かれます。

アイコンをウィンドウに復元するには、次のようにします。

1. ルート・ウィンドウ上のアイコンを指す。
2. MB1 をダブルクリックする。

ウィンドウがオープンされ、使用できるようになります。

2.6.7 ウィンドウの最大化

1つのアプリケーションだけを操作している際には、画面の大きさに合わせてそのアプリケーションのウィンドウを最大化する（拡大する）とよいでしょう。ウィンドウを最大化すると、他のウィンドウやアイコンは画面上にそのまま残りますが、最大化されたウィンドウの下に隠れます。

ウィンドウを最大化するには、次のようにします。

1. ウィンドウの最大化ボタンを指す。
2. MB1 をクリックする。

ウィンドウが画面いっぱいのサイズに最大化されます。

2.6.8 最大化されたウィンドウの復元

最大化されたウィンドウを元のサイズに復元するには、次のようにします。

1. ウィンドウの最大化ボタンを指す。
2. MB1 をクリックする。

ウィンドウが元のサイズに復元します。

2.6.9 新しいウィンドウ管理方法

ここでは、ボタンを使用したウィンドウ管理方法とウィンドウ枠の境界のサイズ変更方法について説明します。ウィンドウ・メニューとルート・メニューを使用すれば、ほとんどのウィンドウ機能にアクセスすることができます。

ウィンドウ・メニューにはウィンドウに関係のあるいくつかのメニュー項目があります。ウィンドウ・メニューを表示させるには、タイトル・バーの左隅にあるウィンドウ・メニュー・ボタンをクリックします。図 2-8 に、ウィンドウ・メニューを示します。

図 2-8 ウィンドウ・メニュー

ルート・メニューには、ウィンドウの調整とウィンドウ・マネージャの設定に関する一般的な情報があります。ルート・メニューを表示させるには、ルート・ウィンドウでMB1かMB3をクリックします。また、ウィンドウ・メニューから「ルート・メニューへ」を選択してルート・メニューを表示させることもできます。図 2-9 に、ルート・メニューを示します。

図 2-9 ルート・メニュー

2.6.10 ウィンドウの配置

いくつものウィンドウが重なっている場合、あるウィンドウを選択すると、そのウィンドウが重なりが一番上となり、入力フォーカスとなります。大きなウィンドウが小

2.6 ウィンドウの管理

小さなウィンドウを覆ってしまっている場合は、大きなウィンドウを移動しないとその覆われた小さなウィンドウを選択することはできません。

ルート・メニューのウィンドウ配置オプションを使用すると、ウィンドウを別の場所に移動せずに配置を変えることができます。「奥へ」と「手前へ」は、入力フォーカスに影響を与えずに画面上でウィンドウを奥や手前に移動します。「次のウィンドウ」と「前のウィンドウ」は、どちらのウィンドウが実行されているかを変更します。省略時の設定では、どちらもウィンドウを画面の一番上にします。

目的	方法
画面の一番下のウィンドウを一番上にする	ルート・メニューから「手前へ」を選択する
画面の一番上のウィンドウを一番下にする	ルート・メニューから「奥へ」を選択する
ひとつ前に実行されていたウィンドウを入力フォーカスにする	ルート・メニューから「次のウィンドウ」を選択する
「次のウィンドウ」の逆順でウィンドウを入力フォーカスにする	ルート・メニューから「前のウィンドウ」を選択する

2.7 ダイアログ・ボックスの操作

タスクを実行するためにユーザからの追加情報が必要になると、ダイアログ・ボックスが表示されます。テキストの入力が必要な場合もあれば、ボタンをクリックして設定値を変更するだけでよい場合もあります。

2.7.1 ダイアログ・ボックスでの情報の指定

ダイアログ・ボックスには、アプリケーションに情報を提供するための各種の方法が示されます。次の図に、情報を入力するいくつかの方法を示すダイアログ・ボックスの一例を示します。

図 2-10 ダイアログ・ボックス

ダイアログ・ボックスで情報を指定するには、次のような方法があります。

- テキスト入力領域にテキストを入力する。
テキスト入力領域とは、特定のタスクを実行するのに必要な情報を入力するダイアログ・ボックス中の領域をいいます。
各テキスト入力領域には、テキスト挿入カーソルがあります。テキスト挿入カーソルは、該当するテキスト入力領域が入力フォーカスになっている場合に点滅し、入力するテキストが現れる場所を示しています。入力した内容は、テキスト挿入カーソルの左側に現れます。入力ミスを訂正するには、<⌫>キーを使用してください。
- ダイヤモンド型 () のラジオ・ボタンまたは四角い () チェック・ボタンをクリックする。
ラジオ・ボタンをクリックすると、多数のオプションの中から 1 つのオプションを選択できます。チェック・ボタンをクリックすると、設定値が有効 / 無効に切り替わります。
- スケール内でスライダをドラッグする。
数値を指定する必要がある場合は、ダイアログ・ボックスにスケールとスライダが現れます。スライダ中の矢印は、現在の値を示しています。
- リスト・ボックスのファイル名など、選択項目を選択する。
選択項目がリスト・ボックスに収まらない場合は、スクロール・バーが現れません。

2.7 ダイアログ・ボックスの操作

- プッシュ・ボタンをクリックする。
「了解」、「取消」、「フィルタ」などのプッシュ・ボタンにより、ダイアログ・ボックスに与えた情報で何をするのかを DECwindows に知らせます。

注意

プッシュ・ボタンの枠が二重になっている場合は、省略時のオプションであることを示しています。省略時のオプションとは、最も頻繁に選択するオプションをいいます。通常は、「了解」ボタンがダイアログ・ボックスの省略時のオプションになります。二重枠のボタンがある場合は、`Return`キーを押すと、そのボタンをクリックしたのと同じ結果が得られます。

2.7.2 ダイアログ・ボックス中での移動と設定値変更

ダイアログ・ボックス中でどのようにフォーカスを移動するかは、操作しようとするチェック・ボタンやテキスト入力領域などのオブジェクトによって決まります。次の表は、ダイアログ・ボックス中で移動したり指定値を変更したりする方法を説明したものです。

目的	処置
テキスト入力領域間で前進する	<code>Tab</code> キーを押すか、移動先のテキスト入力領域を指して MB1 をクリックする
テキスト入力領域間で後退する	<code>Shift+Tab</code> キーを押すか、移動先のテキスト入力領域を指して MB1 をクリックする
テキスト入力領域中でテキスト・カーソルを移動する	テキストを挿入したい場所を指して MB1 をクリックするか、左右の矢印キーを使用してテキスト・カーソルを左右に移動する。新しい文字を入力すると、既存の文字が右に移動する。
スケール上の数値を変更する	スケール上のスライダを左右にドラッグするか、スケール上の別の場所を指して MB1 をクリックする
ラジオ・ボタンまたはチェック・ボタンの設定値を変更する	ラジオ・ボタンまたはチェック・ボタンを指して MB1 をクリックする

2.7.3 設定値の保管

設定値を変更する場合は、「了解」または「適用」ボタンのいずれかをクリックすれば、新しい設定値が有効になります。設定値を変更しない場合は、「取消」ボタンをクリックします。

クリックするボタン	結果
了解	設定を適用して、ダイアログ・ボックスを消す。
適用	ダイアログ・ボックスを消さずに設定を適用する。
取消	設定を変更せずに、ダイアログ・ボックスを終了する。設定を変更したがそれを適用していない場合は、「取消」ボタンをクリックすると、その変更内容が取り消される。

2.7.4 リスト・ボックスからの選択

リスト・ボックスとは、選択可能な項目（通常は、ファイル名）の一覧が入ったダイアログ・ボックスの一部分をいいます。多くのアプリケーションは、ファイルをオープンしたり保管する際にリスト・ボックスを表示します。

リスト・ボックスから項目を選択するには、目的の項目を指してMB1をクリックします。選択した項目が強調表示されます。図 2-11 に、ダイアログ・ボックス内のリスト・ボックスを示します。

図 2-11 リスト・ボックス

2.7.5 ファイル選択ボックスの使用

アプリケーションを終了する際にファイル名を指定する必要がある場合は、ファイル選択ボックスが表示されます。ファイル選択ボックスには、現在のディレクトリにあるファイル名の一覧が表示されます。図 2-12 にファイル選択ボックスを示します。

図 2-12 ファイル選択ボックス

リスト・ボックスからファイル名を選択してから、「了解」ボタンをクリックしてファイルをオープンします。なお、リスト・ボックスからファイルをオープンするもっとも簡単な方法もあります。それは、ファイル名をダブルクリックする方法です。これだけで、ファイル名を選択して「了解」ボタンをクリックしたことと同様の結果が得られます。

リスト・ボックスにないファイルを選択したい場合は、「選択」入力領域にそのファイル名を入力して「了解」ボタンをクリックします。あるいは、「フィルタ」入力領域を使用して、ファイルのサブセットを表示して、その中からファイルを選択します。たとえば、他のディレクトリにあるファイル・タイプが TXT のファイルすべてを表示する場合は、完全なディレクトリ指定（たとえば[JONES.LETTERS]*.TXT）を、タイプが TBD のファイルすべてを表示する場合には、完全なディレクトリ指定（たとえば/usr/users/grey/*TBD）を「フィルタ」入力領域に入力し、「フィルタ」ボタンをクリックします。対応するファイルの一覧が表示されます。ここで、オープンしたいファイルをダブルクリックしてください。

2.8 スクロール

アプリケーションのウィンドウ中には、1つのウィンドウに収まりきれないテキストを表示する際に使用するスクロール・バーが表示されるものもあります。スクロール・バーには、水平スクロール・バーと垂直スクロール・バーの2種類があります。

スクロール・バーのスクロール領域の両端には、ステップ矢印があります。スライダは、スクロール領域内の現在表示している部分（位置）を示す四角です。スライダがスクロール領域の最上部にある場合は、ファイルまたはリストの最初の部分が表示され、スライダがスクロール領域の最下部にある場合は、ファイルまたはリストの終わりの部分が表示されています。

スライダのサイズは、ドキュメント中のテキストの総量に比例し、表示するテキストがあとどの程度残っているかを示します。たとえば、小さいスライダは表示するテキストがまだたくさんあることを示し、スクロール・バーを完全に覆う大きいスライダはすべてのテキストが表示されていることを示します。

次の表は、スクロール・バーの使い方を示しています。

目的	方法
一度に1行ずつ	ステップ矢印の上でMB1をクリックする。
一度に1ウィンドウずつテキストを進める	スライダの下のスクロール領域を指して、MB1をクリックする。
一度に1ウィンドウずつテキストをもどす	スライダの上のスクロール領域を指して、MB1をクリックする。
一度に1行ずつリストまたはファイル全体をスクロールする	いずれかのステップ矢印の上でMB1を押し続ける。
一度に1つのテキスト・ウィンドウずつリストまたはファイル全体をスクロールする	スクロール領域の上でMB1を押し続ける。
スライダを特定の位置に移動する	スクロール領域の上でMB2を押す。
リストまたはファイルの別の位置に移動する	表示したい位置に対応するスクロール領域の中の位置にスライダをドラッグする。別のマウス・ボタンをクリックして、ドラッグを取り消してから、MB1を離す。

2.9 テキストの編集

DECwindowsには、テキストを編集するための方法がたくさんあり、テキストを編集すれば、長いファイル名や大きなテキスト・ブロックを入力し直さなくて済みます。ほとんどのアプリケーションでは、テキストを次のように移動したり複写したりできます。

- ウィンドウ中のある場所から別の場所へ
- あるウィンドウから別のウィンドウへ
たとえば、電子メールの中の「メッセージ作成」ウィンドウのテキストを別のウィンドウに複写する。
- あるアプリケーションから別のアプリケーションへ
たとえば、ペイントの絵をカード管理のカードに移動する。

さらに、ほとんどのアプリケーションには「編集」メニューがあり、テキストやグラフィックスの切抜き、複写、貼付けなどができます。特定のアプリケーションでの「編集」メニューの使い方については、それぞれのアプリケーションのヘルプを参照してください。

2.9 テキストの編集

2.9.1 テキストの選択

1つのウィンドウ内、または複数のウィンドウ間で、テキストを別の位置に複写したり移動したりする場合は、あらかじめテキストを選択しておかなくてはなりません。テキストは、一度に1つ（語、行、段落）ずつ複写できます。MB1を繰り返しクリックすると、選択するテキストの量が増大します。すなわち、MB1を押すたびに選択するテキストの量が増えます。

次の表は、テキストの選択方法を示しています。

目的	方法
カーソルを選択を開始したい場所に置く	目的の位置を指して、MB1をクリックする。
語を選択する	目的のワードを指して、MB1をダブルクリックする。
行を選択する	目的の行を指して、MB1を3回クリックする。
元の選択場所からボタンを離す場所まで、一定範囲のテキストを連続して選択する	MB1を押しながら、ポインタを目的のテキスト上でドラッグする。
現在の選択内容を拡大する	[Shift]キーを押しながらMB1を押して、追加するテキスト上でポインタをドラッグする。
現在の選択内容をポインタを置く位置まで拡大する	[Shift]キーを押しながら、MB1をクリックする。

また、アプリケーションの中には、一度に大きなテキスト・ブロックを選択できるものもあります。たとえば、メール・メッセージ全体を選択するには、目的のテキストを指して、MB1を4回クリックします。

一度に選択できるテキストは一ヶ所だけです。あるアプリケーション中でテキストを選択すると、同じウィンドウまたは別のアプリケーションでの他のテキスト選択は取り消されます。

2.9.2 テキストの複写

ウィンドウの中でテキストを入力できる場合は、選択したテキストを同じウィンドウのある場所から別の場所、同じアプリケーションのウィンドウ間（たとえば、電子メールのメイン・ウィンドウと「メッセージ作成」ウィンドウ間）、または異なるアプリケーション間で複写することができます。

また、テキストをファイルビューのウィンドウ（ファイルビューのファイル・リストも含む）からテキスト入力をサポートするアプリケーションに複写することもできます。

1つのウィンドウ内、同じアプリケーションのウィンドウ間、または異なるアプリケーション間でテキストを複写するには、次のようにします。

1. 第2.9.1項で説明するテキスト選択方法を使用して、複写するテキストを選択する。

2. テキストを複写したい場所にカーソルを置いて、MB1 をクリックする。
3. MB2 をクリックする。

テキストが新しい位置に複写されます。

テキストの複写先のウィンドウが入力フォーカスとなります。選択したテキストを元のウィンドウに複写し直す場合は、元のウィンドウを再び入力フォーカスにする必要があります。ただし、場合によっては、入力フォーカスとなるウィンドウにかかわらず、テキストの一部を別のウィンドウからグラフしなければならないこともあります。このような場合は、クイックコピーが便利です。現在のウィンドウの入力フォーカスを失わずに、テキストを別のウィンドウから現在のウィンドウに素早く複写できます。

クイックコピーを使用するには、次のようにします。

1. 現在のウィンドウで、テキストを複写したい場所にカーソルを置いて、MB1 をクリックする。
2. 他のウィンドウで、複写したいテキストを指す。
3. MB2 を押し続ける。
4. 複写したいテキストの範囲をドラッグする。

ドラッグしたテキストに下線が付きます。(漢字端末エミュレータでは反転表示となります)

5. MB2 を離す。

テキストが現在のウィンドウ中の新しい位置に複写されます。

2.9.3 ウィンドウ間でのテキストの移動

あるウィンドウで作業中に、現在のウィンドウを入力フォーカスにしたままで、別のウィンドウのテキストを現在のウィンドウに移動することもできます。この場合、このテキストは、元の位置から削除されます。

あるウィンドウから別のウィンドウにテキストを移動するには、次のようにします。

1. 現在のウィンドウで、テキストを貼付けたい場所にカーソルを置いて、MB1 をクリックする。
ウィンドウが入力フォーカスになっていることを確認してください。
2. 他のウィンドウで、移動したいテキストを指す。
3. **Ctrl+MB2** を押し続ける。
4. 移動したいテキストの範囲をドラッグする。

ドラッグしたテキストに下線が付きます。(漢字端末エミュレータでは反転表示となります)

5. `Ctrl+MB2`を離す。

テキストは新しい位置に移動し、元の場所からは削除されます。

2.10 ドラッグ・ドロップ機能

ドラッグ・ドロップ機能を使用すると、ウィジェット間で情報を移動したり複製したりできます。この機能が表 2-1 に示したウィジェットで実現されています。

表 2-1 ドラッグ・ドロップ機能がサポートされているウィジェット

ウィジェット	ドラッグ操作	ドロップ操作
XmText	複製および移動	複製および移動
XmTextField	複製および移動	複製および移動
XmLabel	複製	
XmPushButton	複製	
XmToggleButton	複製	
XmList	複製	

ドラッグ・ドロップ機能のアプリケーションへの取り込み方法およびドラッグ・ドロップのサンプル・プログラムの例については、『OSF/Motif プログラマーズ・ガイド・リリース 1.2』を参照してください。

2.10.1 ドラッグ・ドロップ機能の使用

ドラッグ・ドロップ機能を使用すると、画面上のオブジェクトの移動、複製ができるようになります。たとえば、ボタンからテキストを取り出し、他の場所に貼り付けることができます。

テキストを新しい位置にドラッグ・ドロップするには、次のようにします。

1. 複製または移動するテキストを選択する。
2. テキストを移動する場合は、MB2 を押し続ける。テキストを複製する場合は、`Ctrl+MB2`を押し続ける。

移動または複製のアイコンが現われます。

3. テキストをドロップしたい位置までアイコンをドラッグして、MB2 を離す。
オブジェクトが強調表示されていれば、その場所にテキストがドロップされません。

2.11 ティア・オフ・メニューの使用

DECwindows Motif で提供するすべてのアプリケーションでは、プルダウンやポップアップメニューのティア・オフ操作ができます。ティア・オフ・メニューを使用すると、メニューを繰り返しプルダウンあるいはポップアップして表示しなくても、頻繁に使用するメニューを表示し続けることができます。

1. プルダウン・メニューまたはポップアップ・メニューを表示する。

表示されたメニューがティア・オフ・メニューとして切り離せる場合は、メニューの上部に点線が表示されます。

2. 点線をクリックする。

切り離れたメニューは明示的にクローズするまで、あるいはアプリケーションをクローズするまで表示し続けます。

ティア・オフ・メニューを閉じる手順は以下の通りです。

1. ティア・オフ・メニューでウィンドウ・メニュー・ボタンをクリックする。
2. メニュー項目「クローズ」を選択する。

2.12 特殊文字の入力

DECwindows では、コンポーズ・シーケンスを使用して特殊文字 (Æ, Ñ, Œ) を入力することができます。コンポーズ・シーケンスとは、キーボード上に標準キーとして存在しない文字を入力する一連のキー操作をいいます。コンポーズ・シーケンスに関する詳細は、『VMS DECwindows Motif User's Guide』を参照してください。

コンポーズ・シーケンスを使用して特殊文字を入力する際は、キーボード設定を北アメリカ (NORTH AMERICAN LK201LA) 等に設定してください。

2.13 ファイルの印刷

DECwindows では、アプリケーションで作成/操作しているファイルを印刷することができます。たとえば、メール・メッセージやペイントで作成した図を印刷できます。この節では、ファイルの印刷方法について説明します。

アプリケーション中で「印刷」コマンドを選択すると、ファイルが作成されてプリンタに送られます。高度な印刷処理を実行したい場合は、さらに詳細な設定を指定することもできます。印刷中は、現在のアプリケーションでの作業を続けることもできますし、別の作業を行うこともできます。

2.13 ファイルの印刷

2.13.1 アプリケーションからのファイルの印刷

画面上に現在表示中のもの（たとえば、メール・メッセージ）を印刷するには、アプリケーションの「ファイル」メニューから「印刷」を選択します。ファイルは、印刷ジョブを管理するプリント・キューに送られます。印刷ジョブを受け入れられるプリンタに送られます。

DECwindows では、ジョブの印刷方法についての追加情報を設定することもできます。たとえば、ジョブを送るプリント・キューを指定したり、印刷部数を指定したりできます。

このような印刷についての追加情報を設定するには、アプリケーションの「ファイル」メニューから「印刷...」を選択します。このとき、アプリケーションにより、ダイアログ・ボックスが表示されます。図 2-10 は、「印刷」のダイアログ・ボックスを示しています。

印刷のダイアログ・ボックスでは、次のような設定値を変更できます。

- 印刷部数
- ページ範囲
- プリント・フォーマット
- プリンタ
- 用紙の方向
- ファイルの印刷開始時刻
- 印刷後にファイルを削除するかどうか

なお、漢字プリンタに日本語を出力する場合は、プリント・フォーマットとして以下のいずれかを指定してください。

プリンタ	プリンタ・フォーマット
LN80 以外の漢字プリンタ	Kanji
LN80 プリンタ (テキスト・ファイル)	LN80(Text)
LN80 プリンタ (シクセル・ファイル)	LN80(Sixel)

より高度な印刷設定を指定するには、「印刷」ダイアログ・ボックスで「オプション...」ボタンをクリックします。

より高度な印刷設定に関する詳細は、印刷のヘルプを参照してください。

セッション・マネージャの使い方

この章では、セッション・マネージャを使用して次のことを行う方法について説明します。

- アプリケーションの実行
- セッションの一時停止
- セッションの終了
- 処理中の作業の監視
- DECwindows 環境の設定

3.1 アプリケーションの実行

DECwindows アプリケーションを実行するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから使用したいアプリケーションを選択します。ウィンドウにそのアプリケーションが表示されます。

新しくセッションを起動した際に自動的にアプリケーションを起動するようにセッション・マネージャを設定するには、セッション・マネージャの「オプション」メニューから「自動起動...」を選択します。詳細は、セッション・マネージャのヘルプを参照してください。

以下の項では、2つのDECwindows アプリケーションの起動方法について説明します。各DECwindows アプリケーションの起動後の使用および終了については、第6章を参照してください。

3.1.1 ファイルビューの作成

セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「ファイルビュー」を選択すると、ファイルやディレクトリを操作するためのファイルビューのウィンドウがオープンされます。

ファイルビューの使い方に関しては、第4章を参照してください。

3.1 アプリケーションの実行

3.1.2 メッセージ・ウィンドウの作成

メッセージ・ウィンドウは、メッセージ、メールの通知、問題に関する警告を表示します。

メッセージ・ウィンドウを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「メッセージ・ウィンドウ」を選択します。

3.2 処理中の作業の監視

セッション・マネージャは、現在実行中のアプリケーションやファイルビューのタスクを「処理中」ダイアログ・ボックスで監視します。

「処理中」ダイアログ・ボックスを表示するには、セッション・マネージャの「セッション」メニューから「処理中...」を選択します。図 3-1 に「処理中」ダイアログ・ボックスを示します。

図 3-1 「処理中」ダイアログ・ボックス

「処理中」ダイアログ・ボックスは、クローズするまでオープンされたままになっています。

「状態」欄にタスクの状態が示されます。この状態は次のいずれかになります。

状態	意味
「起動中」	アプリケーションが起動されたが、まだ表示されていない。
「実行中」	タスクが現在実行中である。
「待機中」	実行可能なタスク（“サブプロセス”と呼ばれる）の数を越えたためにタスクを実行できない。他にいくつかのタスクを実行している場合、そのタスクが完了すると、このタスクの状態が「実行中」に変わる。
「エラー」	タスクを正常に実行できない。
「終了」	タスクが終了している
「停止」	タスクの終了が要求されたが、終了していない。タスクが停止すると、タスクを出力する場合を除いて、「処理中」ダイアログ・ボックスのタスクの項目を削除する。

状態	意味
「出力」	タスクが生成された。タスク出力を表示するには、「出力表示」ボタンをクリックする。

3.2.1 タスクの取り消し

タスクの待機中または実行中にそのタスクを取り消すには、「処理中」ダイアログ・ボックスでそのタスクを選択し、「タスク停止」ボタンをクリックします。すぐにタスクが反応しなければ、停止状態となります。

3.3 セッションの休止

セッション・マネージャからは、現在のセッションを無期限に休止して、セッションを終了することなくワークステーションをロックすることができます。セッションを休止すると、画面は消去されますが、セッションはそのままの状態に保たれます。起動したアプリケーションの実行は継続されるため、画面環境を再構築しなくても作業を再開できます。

現在のセッションを休止するには、セッション・マネージャの「セッション」メニューから「休止」を選択します。画面が消去されて、休止セッション画面が表示されます。

セッションを再開するには、パスワードを入力します。入力を間違えた場合は、「消去」ボタンをクリックしてそれまでの入力内容を取り消した後、パスワードを正しく入力し直して`[Return]`キーを押します。

パスワードの入力に間違いがなければ、セッションが再開されます。パスワードが間違っている場合は、そのことが通知されます。この場合は、`[Return]`キーを押してメッセージに応じてから、パスワードを再入力して`[Return]`キーを押します。

3.4 セッションの終了

セッションを終了するには、セッション・マネージャの「セッション」メニューから「セッション終了」を選択します。セッションを終了するかどうかを確認するダイアログ・ボックスが表示されます。図 3-2 にこのダイアログ・ボックスを示します。

3.4 セッションの終了

図 3-2 セッション終了時のダイアログ・ボックス

セッションにもどるには、「いいえ」ボタンをクリックします。セッションを終了するには、「はい」ボタンをクリックします。セッションを終了すると、すべてのウィンドウがクローズされて、DIGITAL のロゴと「セッション起動」画面が表示されます。

3.5 DECwindows セッションのカスタマイズ

セッション・マネージャの「オプション」メニューには、キーボード、言語、ウィンドウ色、メニューおよびメニュー・バーなどのセッション特性をカスタマイズするためのメニュー項目があります。

以下の項では、次の特性のカスタマイズ方法について説明します。

- キーボード
- セッション言語

カスタマイズ可能な他のセッション特性については、セッション・マネージャのヘルプを参照してください。

3.6 キーボード・タイプの変更

キーボード・タイプを変更するには、セッション・マネージャの「オプション」メニューから「キーボード...」を選択します。「キーボードの設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。図 3-3 に、このダイアログ・ボックスを示します。

図 3-3 「キーボードの設定」ダイアログ・ボックス

「キーボードの設定」ダイアログ・ボックスでは、キーボード・タイプを変更できます（このダイアログ・ボックスの他のキーボード設定の変更については、セッション・マネージャのヘルプを参照してください）。キーボード上の文字の位置は、キーボード・モデルによって異なります。使用しているキーボード・モデルに対応するキーボード・タイプを選択すれば、キーを押したときに対応する正しい文字を表示させることができます。

システムの省略時のキーボード・タイプは北米語です。日本語 DECwindows のインストール時に、日本語のキーボード・モデルに対応するキーボード・タイプを選択している場合は、日本語のキーボード・タイプがシステムの省略時の設定となります。すなわち、この場合は、そのワークステーションで起動するすべての DECwindows セッションで日本語のキーボード・タイプが使用されます。

ワークステーションのキーボードが DECwindows をインストールした際に指定したキーボード・タイプと異なる場合は、キーボード・モデルに合わせてキーボード・タイプを設定しなければなりません。これは、システムの省略時のキーボード・タイプを永久に変更するのではなく、キーボード・タイプを一時的に変更するだけです（たとえば、DECwindows をインストールした際にシステムの省略時のキーボード・タイプを日本語に設定したワークステーションに、北米語キーボードを接続する場合です）。

キーボードのモデル番号を調べるには、キーボードを裏返しにして、モデル番号が書かれているラベルを捜します。モデル番号は、LK201-xxの形式になっているはずですが（モデル番号が単にLK201として示されていることもあります。この場合、xxはラベルの他の部分に示されています。nn-nnnnn-xxという形式の番号を捜してください）。この番号を使用して、「キーボード・タイプ」リスト・ボックスからキーボー

3.6 キーボード・タイプの変更

ド・タイプを選択します。たとえば、キーボード・モデルが LK201 AJ の日本語キーボードを使用する場合は、キーボード・タイプとして「JAPANESE LK201AJ」を選択します。

3.7 セッション言語の変更

特に指定しない限り、DECwindows アプリケーションは米国英語で表示されますが、他の言語で使用することもできます。システム上に該当する言語サポートがインストールされている場合は、別の言語で DECwindows を使用できます。

別のセッション言語を設定するには、セッション・マネージャの「オプション」メニューから「言語...」を選択します。「言語の設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。図 3-4 に「言語の設定」ダイアログ・ボックスを示します。

図 3-4 「言語の設定」ダイアログ・ボックス

言語の一覧をスクロールして、目的の言語を選択すると、以後起動するアプリケーションはその言語で表示されます。選択した言語がシステムでサポートされていない場合、アプリケーションは米国英語で表示されます。

言語機能は、システムごとに異なります。アプリケーションが別の言語で使用できるかどうかは、そのアプリケーションのドキュメントで確認してください。

3.8 入力スタイルの変更

入力スタイルを変更するには、セッション・マネージャの「オプション」メニューから「入力スタイル...」を選択し、「入力サーバ・オプション」ダイアログ・ボックスを表示させます。図 3-5 に、「入力サーバ・オプション」ダイアログ・ボックスを示します。

図 3-5 「入力サーバ・オプション」ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで入力スタイルを選択することにより、日本語入力に使用する入力スタイルを変更することができます。

ファイルビューの使い方

ファイルビューは、OpenVMS オペレーティング・システムを図で表現したものです。ファイルビューでは、マウスを使用して画面上でテキストやオブジェクトを選択することによって、コマンドを実行したりタスクを実行したりできます。

この章では、ファイルビューを使用して、次のことを行う方法について説明します。

- ファイルの操作
- ファイルについての情報の表示
- ディレクトリを作成 / 使用してファイルを管理する方法

図 4-1 にファイルビューのウィンドウを示します。

図 4-1 ファイルビュー

- タイトル・バーには、ウィンドウの名前が表示されます。
- メニュー・バーには、ファイルビューのメニュー名が表示されます。

- 「ディレクトリ」入力領域には、現在作業中または省略時の装置とディレクトリの名前が表示されます。特に指定しない限り、ファイルビューを起動すると、最上位のディレクトリが表示されます。
- 「親ディレクトリ」ボタン（「ディレクトリ」入力領域の左）を使用すると、ディレクトリ構造内を移動できます。このボタンは、サブディレクトリでファイルを選択した際に現れます。サブディレクトリ間を移動すると、このボタンのラベルは、対応する親ディレクトリの名前に変わります。
- サブディレクトリ一覧（「親ディレクトリ」ボタンの下にあります）には、サブディレクトリが表示されます。サブディレクトリ一覧を使用すると、現在のウィンドウでディレクトリ構造を下方に移動できます。
- ファイル選択メニュー・バーには、ファイルを選択したり選別したりする際に使用する「選択された数」、「総ファイル数」、「対象外ファイル」メニューがあります。
- 「適用」ボタンは、「選択条件」と「ディレクトリ」入力領域の内容に応じて表示を更新する際に使用します。
- ファイル・リストには、現在のディレクトリにあるファイルや「選択条件」で指定されたファイルについての、作成日やサイズなどの各種の情報が表示されます。ファイルビューを初めて起動した際は、ファイル・リストには、最上位のディレクトリにあるファイル名だけが表示されます。
- 「選択条件」入力領域は、ファイル・リストに現在あるファイルの一部（たとえば、すべての*.TXT ファイル）を表示する際に使用します。
「総ファイル数」メニューの脇に選別したファイルの数が表示されます。

4.1 ファイル・リストの更新

表示するファイル・リストを変更するには、「選択条件」または「ディレクトリ」入力領域に別のディレクトリを指定したり、ワイルドカードを使用して特定のファイルを指定します。

たとえば、現在のディレクトリにある TXT ファイルだけを表示するには、「選択条件」入力領域に*.TXT と入力してから、「適用」ボタンをクリックします。ファイル・リストには、指定した条件を満たすファイルだけが表示されます。

現在のディレクトリの内容が変更されると、「適用」ボタンが「更新」ボタンに変わります。その変更をファイル・リストに反映させる場合は、「更新」ボタンをクリックします。たとえば、ファイル・リストにあるファイル名を変更したり削除したりすると、「適用」ボタンが「更新」ボタンに変わって、ファイル・リストを更新するように促されます。ファイル・リストを更新しても、他のファイルでの作業を継続したり他のタスクを実行したりできます。

更新操作を開始すると、「適用」または「更新」ボタンが「取消」ボタンになります。「取消」ボタンをクリックすると、すぐにファイル検索が停止されて、損失情報を示すポップアップ・メッセージ・ボックスにこれまでに収集されたファイル情報が表示されます。

4.2 ファイルの選択と選別

ファイルビューでタスクを実行するには、まず、作業対象のファイルを選択しなければなりません。選択されたファイルは強調表示され、そのファイルに対してコマンドが実行されます。ファイルを選択または選別すると、現在選択または選別されているファイルの数が「総ファイル数」メニュー・バーに表示されます。

ファイルを選択しないでファイルビューのコマンドを選択すると、コマンドの実行の対象となる1つまたは複数のファイル名の入力を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。

4.2.1 ファイル・リストからのファイルの選択

ファイル・リストからファイルを選択するには、次のようにします。

1. 選択しようとするファイルを指す。
2. MB1 をクリックする。

ファイル名が強調表示されます。

一度に1つずつファイルを選択すると、前のファイル選択が取り消されます。

4.2.2 隣接するファイルの選択

ファイル・リストから隣接するいくつかのファイルを選択するには、次のようにします。

1. 選択範囲の最初のファイルを指す。
2. 隣接する他のファイルをポインタでドラッグする。

選択されたファイルが強調表示されます。「総ファイル数」メニュー・バーに選択されたファイルの数が表示されます。

4.2.3 散在するファイルの選択

ファイル・リストの中に散在するいくつかのファイルを選択するには、次のようにします。

1. 選択する最初のファイルを指して、MB1 をクリックする。

4.2 ファイルの選択と選別

2. **Shift**キーを押しながら他のファイル上でMB1 をクリックする。

4.2.4 現在のディレクトリにあるすべてのファイルの選択

現在のディレクトリにあるすべてのファイルを選択するには、ファイル選択メニュー・バーの「選択された数」メニューから「すべて選択」を選択します。すべてのファイルを選択した後に、個々のファイルを指して**Shift**キーを押しながらMB1 をクリックすると、ファイルを1つ1つ削除できます。複数のファイルをまとめて削除するには、**Shift**キーとMB1 を押しながらポインタをドラッグして削除するファイルの範囲を指定します。

ファイル選択を取り消すには、ファイル選択メニュー・バーの「選択された数」メニューから「選択なし」を選択します。

4.2.5 他のウィンドウにあるファイル名の選択

ファイル名の上でポインタをドラッグするか、ファイル名をダブルクリックすれば、他のウィンドウにあるファイル名を選択することもできます。テキストの選択に関しては、第 2.9.1 項を参照してください。

4.3 処理中の作業の監視

DECwindows は、ファイルビューのタスクを「処理中」ダイアログ・ボックスで監視します。ファイルビューのタスクの監視については、第 3.2 節を参照してください。

4.4 ファイル操作

ファイルビューの「コマンド」メニューでは、ファイルに関する次のような操作を実行できます。

- ファイルの編集
- ファイルの複写
- ファイルの読み込み
- ファイル中のテキスト文字列の検索
- ファイル名の変更
- ファイルの比較
- ファイルについての情報の表示
- ファイルのページと削除
- 未許可のアクセスからのファイル保護

- ファイルの印刷
- プログラムの実行

ファイルビューの「コマンド」メニューからコマンドを選択する際は、コマンドを直接実行することもできますし、コマンドのダイアログ・ボックスを表示して実行することもできます。コマンドのダイアログ・ボックスでは、ファイル操作ごとにオプションを選択します。たとえば、「複写」コマンドを使用した場合は、ファイルを複写するたびに確認プロンプトを表示するように設定できます。

ダイアログ・ボックスを表示しないでコマンドを実行するには、ファイルを選択した後、ファイルビューの「コマンド」メニューから使用したいコマンドを選択します。

コマンドを使用する際にダイアログ・ボックスを表示するには、ファイルビューの「コマンド」メニューから使用したいコマンドの脇の反復記号を選択します。ファイルを選択しないでコマンドを実行すると、ダイアログ・ボックスが自動的に表示されます。

各コマンドに関する詳細は、ファイルビューのヘルプを参照してください。

4.5 ディレクトリ操作

最上位のディレクトリでは、ファイルの使用やアプリケーションの実行などのすべての操作を行うことはできますが、そこから移動することはできません。ただし、サブディレクトリを作成すれば、ファイルをいくつかのグループにまとめることができます。

ファイルビューでは、次のようなディレクトリ操作を行うことができます。

- ディレクトリの作成
- ディレクトリの削除
- ディレクトリの変更
- ワイルドカードによるディレクトリ構造の検索

これらの操作に関する詳細は、ファイルビューのヘルプを参照してください。

4.6 ファイルビューのカスタマイズ

次に示すファイルビューの特性は、目的に応じてカスタマイズできます。

- メニュー
- メニュー・バー
- ファイル・リストのレイアウト

4.6 ファイルビューのカスタマイズ

- ポップアップ・メニュー

ファイルビューのカスタマイズに関する詳細は、ファイルビューのヘルプを参照してください。

ハイパーアプリケーション機能

ハイパーアプリケーション機能を使用すると、DECwindows アプリケーションによって格納/アクセスできる情報をリンクすることができます。ハイパーアプリケーションとは、オンライン・ブックの読み込みなどの通常の機能に加えて、情報をリンクしたりリンクを追跡したりできるアプリケーションのことです。メニュー・バーに「リンク」メニューがあれば、そのアプリケーションはハイパーアプリケーションであるといえます。

この章では、次に示すような、基本的なハイパーアプリケーションの概念と手法を紹介します。

- ハイパーアプリケーション・オブジェクト（リンク可能な情報の一部分）
- リンクの作成
- リンクの追跡
- 強調表示

注意

「リンクワークス・セットアップ」アプリケーションまたは「リンクワークス・マネージャ」アプリケーションを起動してからでないと、ハイパーアプリケーション機能は使用できません。省略時の設定では、セッションを起動すると、セッション・マネージャによって「リンクワークス・セットアップ」が自動的に起動されます。

リンクワークス・マネージャに関する詳細は、第 6.8 節を参照してください。

5.1 簡単な例

DECwindows の電子メールを使用して電子メッセージを送受信し、DECwindows カレンダーを使用して予定を追跡する場合を考えてみましょう。

2 週間後のミーティングに開催に関する電子メールのメッセージを受信したとします。メッセージには、詳しい議事日程と話し手についての情報が示されています。カレンダーの対応する時間帯にミーティングの予定を登録します。予定を識別するために、“プロジェクト・レビュー・ミーティング”とだけ入力します。そして、このミーティングの内容を後で思い出せるように、次のことを行います。

5.1 簡単な例

1. ミーティング開催の電子メールのメッセージを選択した後，電子メールの「リンク」メニューから「リンク開始」を選択する。図 5-1 に「リンク」メニューを示す。

図 5-1 「リンク」メニュー

2. ミーティングの予定を登録したカレンダーの時間帯を選択した状態で，カレンダーの「リンク」メニューから「リンク完了」を選択する。

後で，ミーティング当日のカレンダーの予定を見ると，予定の時間帯に情報リンクの存在を示すマーク（電球形アイコン）が表示されます。リンクを調べるには，次のようにします。

1. 予定の時間帯を選択する。
2. カレンダーの「リンク」メニューから「訪問」を選択して，この時間帯とリンクしている情報を表示する。ただし，カレンダーは画面上に残しておく。

電子メールが自動的に起動され，リンクされた情報が表示されます。リンクされている情報が電子メールのメッセージであることを覚えておく必要はありません。

5.2 ハイパーアプリケーション・オブジェクト

ハイパーアプリケーションの情報は，同じハイパーアプリケーションまたは別のハイパーアプリケーションの情報にリンクできます。たとえば，カレンダーのセミナーの予定を，そのセミナーで議論される資料が入っているブックリーダーのトピック（章）にリンクできます。また，ブックリーダーのあるトピックを同じマニュアルまたは別のマニュアルの中の関連トピックにリンクできます。リンクする個々の情報をハイパーアプリケーション・オブジェクトと呼びます。

それぞれのハイパーアプリケーションは、どのオブジェクトがハイパーアプリケーション・オブジェクトなのかを判別します。たとえば、カード管理のカードはハイパーアプリケーション・オブジェクトですが、カード内の各語はハイパーアプリケーション・オブジェクトではありません。特定のハイパーアプリケーションのハイパーアプリケーション・オブジェクトに関しては、該当するアプリケーションのヘルプを参照してください。

5.3 リンクの作成

それぞれのリンクは、2つのハイパーアプリケーション・オブジェクトに関連しています。この2つのオブジェクトのうちの1つがリンクのソースとなり、もう1つがターゲットとなります。

各リンクで、どのオブジェクトがソースで、どのオブジェクトがターゲットであるかは問題ではありません。

リンクする一対のオブジェクトごとに、「リンク開始」で選択したオブジェクトがソースとなり、「リンク完了」で選択したオブジェクトがターゲットとなります。

リンクを作成するには、次のようにします。

1. 1つ目のオブジェクトを選択する。
2. そのオブジェクトのハイパーアプリケーションの「リンク」メニューから「リンク開始」を選択する。選択されたオブジェクトは、リンクが完了するとソースとなる。
3. 2つ目のオブジェクトを選択する。
4. そのオブジェクトのハイパーアプリケーションの「リンク」メニューから「リンク完了」を選択する。選択されたオブジェクトが、リンクのターゲットとなる。

5.4 リンクの追跡

既存リンクの一方（ソースまたはターゲット）を選択してある場合は、リンクを追跡すれば、他方の情報を調べることができます。ただし、最初に、リンクされているオブジェクトとそうでないオブジェクトを区別しておかなくてはなりません。リンクされているオブジェクトは、強調表示を有効にしてあれば、強調表示されます。強調表示に関しては、第 5.5 節を参照してください。

強調表示の方法は、アプリケーションごとに異なります。ハイパーアプリケーションで、リンクされたオブジェクトがどのように強調表示されるかについては、そのアプリケーションのヘルプを参照してください。

5.4 リンクの追跡

オブジェクトを選択して、そのオブジェクトに何がリンクされているかを調べるには、次のいずれかのオプションを選択します。

- 「訪問」

「訪問」は、該当するハイパーアプリケーションを起動してリンクされた情報を表示しますが、現在のハイパーアプリケーションのウィンドウはオープンされたままであり、このウィンドウは入力フォーカスになったままです。

- 「移動」

「移動」は、現在のハイパーアプリケーションのウィンドウをアイコン化してから、該当するハイパーアプリケーションを起動してリンクされた情報を表示します。

ハイパーアプリケーション・オブジェクトがリンクされている情報に訪問したり、移動したりするには、次のようにします。

1. 強調表示されたオブジェクトを選択する。

どのオブジェクトがリンクされていて、どのオブジェクトがリンクされていないかわからない場合は、強調表示を有効にする（第 5.5 節を参照）。

2. 「リンク」メニューから「移動」または「訪問」メニュー項目を選択する。

選択されたオブジェクトがどちらか一方のリンクにしか（ソースまたはターゲットとして）関連しない場合は、すぐに「訪問」または「移動」操作が実行される。

選択されたオブジェクトが複数のリンクに関連する場合は、「リンク」ダイアログ・ボックスが表示されて、選択できるリンクの一覧が表示される。図 5-2 に「リンク」ダイアログ・ボックスを示す。

図 5-2 「リンク」ダイアログ・ボックス

リンクを追跡するには、「リンク」ダイアログ・ボックスを使用して次のようにします。

1. いずれかのリンクを選択する。省略時には、一覧の中の最初のリンクが選択される。
2. 操作を選択する。省略時には、「操作」オプション・メニューに表示されている操作が選択される。
3. 「移動」または「訪問」をクリックして、選択したリンクを移動先オブジェクトまで追跡し、指定した操作を行う。

リンク情報の表示内容を更新するには、「更新」をクリックします。この選択項目は、ダイアログ・ボックスを表示した後でリンクを作成したり変更したりした場合に役立ちます。

リンクについての情報を示すダイアログ・ボックスを表示するには、「リンク表示...」をクリックします。この情報は編集することができます。

選択したリンクを削除するには、「削除」をクリックします。このとき、オブジェクトは削除されるわけではなく、該当するオブジェクトがリンクのソースまたはターゲットではなくなるだけです。

リンクを追跡しないでダイアログ・ボックスを終了するには、「取消」をクリックします。

最も最近に行った「訪問」または「移動」操作の効果を反転させるには、「戻る」メニュー項目を使用します。「戻る」操作は、実際のリンクに影響を及ぼしますが、削除はしません。

5.5 強調表示の調整

リンクされたオブジェクトの強調表示は、ハイパーアプリケーションごとに有効にしたり無効にしたりできます。つまり、オブジェクトがリンクされているという事実を表示することもできますし、表示しないようにすることもできます。

強調表示を有効にしたり無効にしたりするには、「強調表示あり/なし」メニュー項目を使用します。この項目の意味は、現在の状態によって決まります。強調表示が有効な場合（初期の省略時の設定）には「強調表示なし」を意味し、強調表示が無効の場合は「強調表示あり」を意味します。

DECwindows アプリケーション

この章では、次の DECwindows アプリケーションの使い方について説明します。

アプリケーション	目的
ブックリーダー	ワークステーション画面にオンライン・ドキュメントを表示する
電卓	数値演算を実行する
カレンダー	スケジュールを管理する
カード管理	インデックス・カードとカード・ファイルによって情報を整理/管理する
CDA ビューア	ワークステーション画面に各種ファイルの内容を表示する
時計	日付と時間（アナログ形式とデジタル形式の両方）をワークステーション画面に表示する
漢字端末エミュレータ	VT382 の漢字端末をエミュレートするウィンドウを作成する
リンクワークス・マネージャ	ハイパー情報環境を管理する
電子メール	他のコンピュータ・ユーザとメッセージを交換する
ノートパッド	簡単なメモ、記録を作成する
ペイント	簡単な絵、イラスト、図を作成する
画面印刷	画面の全体または一部をデータとして取り込み、そのデータをファイルに格納したりプリンタに印刷したりする
パズル	数字が書かれたパネルを昇順に並び替えるパズル・ゲームを表示する

アプリケーションの起動方法については、この章のそれぞれのアプリケーションについての節および第 3 章を参照してください。

それぞれのアプリケーションの使い方に関する詳細は、各アプリケーションのヘルプを参照してください。ヘルプの参照方法に関しては、第 2.4 節を参照してください。

アプリケーションを終了するには、該当するアプリケーションのメイン・ウィンドウの「ファイル」メニューから「終了」を選択します。

6.1 ブックリーダー

ブックリーダーを使用すると、ワークステーション画面でオンライン・ヘルプを読むことができます。

ブックリーダーを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「ブックリーダー」を選択します。ブックリーダーで扱える本のライブラリがラ

6.1 ブックリーダー

イブラリ・ウィンドウに表示されます。図 6-1 にライブラリ・ウィンドウを示します。

図 6-1 ブックリーダーのライブラリ・ウィンドウ

ライブラリには、関連する本がグループ分けされて格納されています。それぞれのライブラリと本の左にはアイコンが表示され、それがライブラリなのか本なのかが示されます。

ライブラリの中にある本を表示するには、そのライブラリをダブルクリックします。そのライブラリの本の一覧が表示されます。

6.1.1 本のオープン

ライブラリ・ウィンドウに表示されている本をオープンするには、その本のタイトルをダブルクリックします。ライブラリ・ウィンドウが画面に表示されたままで、ナビゲーション・ウィンドウが表示されます。ナビゲーション・ウィンドウには、オープンした本の目次が表示されます。図 6-2 にナビゲーション・ウィンドウを示します。

図 6-2 ブックリーダーのナビゲーション・ウィンドウ

6.1.2 ナビゲーション・ウィンドウへのトピックの配置

ナビゲーション・ウィンドウには、次のような、本の構成要素が表示されます。

目次 (Contents)
図 (Figures)
表 (Tables)
例 (Examples)
索引 (Index)

各構成要素の前には、三角形の矢印が表示されます。

- 右向きの矢印は、その時点で画面上に表示されていないトピックがその構成要素内にあることを示しています。
- 下向きの矢印は、その構成要素内のトピックが画面に表示されていることを示しています。

構成要素内のトピックを表示するには、その構成要素の前にある矢印をダブルクリックします。構成要素内のトピックが表示されます。

これと同じように、トピックの前に矢印が表示されている場合もあります。この矢印は、そのトピック内にサブトピックがあることを示しており、トピックの前にある矢印をダブルクリックすればサブトピックを表示することができます。

6.1 ブックリーダー

6.1.3 トピックのオープン

ナビゲーション・ウィンドウに表示されたトピックまたはサブトピックをオープンするには、そのトピックまたはサブトピックをダブルクリックします。ナビゲーション・ウィンドウを表示したままで、新たにトピック・ウィンドウが表示されて、そのウィンドウにトピックが表示されます。図 6-3 にトピック・ウィンドウを示します。

図 6-3 ブックリーダーのトピック・ウィンドウ

6.1.4 その他の機能の概要

ブックリーダーでは、次のことも行えます。

- 個人ディレクトリにあるライブラリをオープンする。
- 2 つ以上の本を同時にオープンする。
- ホットスポットを強調表示する。
- ハイパーアプリケーション機能を使用する。
- 索引の項目を使用して、本のトピックをオープンする。

これらの機能に関する詳細は、ブックリーダーのヘルプを参照してください。

6.2 電卓

電卓は、加算、減算、乗算、除算といった簡単な算術演算、および百分率、平方根の計算機能を備えています。さらに、三角関数、逆三角関数の計算、乱数の生成、およびその他の高度な演算を実行することもできます。

携帯用の電卓とは違って、電卓には2つの表示画面があります。1つは入力された数字や計算結果を表示するアキュムレータ、もう1つはメモリです。

電卓を起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「電卓」を選択します。

電卓は、10進モードで起動されます。図 6-4 に電卓を示します。

図 6-4 電卓

6.2.1 データの入力

電卓は、マウスまたはキーボードのいずれかを使用して操作します。

- マウスを使用する際は、該当するボタンを指して MB1 をクリックします。
- 使用できるキーボード・キーとその機能に関しては、電卓のヘルプに示されています。

6.2 電卓

6.2.2 その他の機能の概要

電卓は、10進モードと同様に、8進モードと16進モードでも動作します。モードの切り替え、および8進モードと16進モードで使用できるキーボード・キーに関しては、電卓のヘルプを参照してください。

6.3 カレンダー

カレンダーは、卓上カレンダーと予定表を組み合わせたもので、会合の予定を把握して自分のスケジュール管理に役立てることができます。1年分のカレンダーを表示させたり、1日分の予定だけを表示させるといったことができます。

カレンダーを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「カレンダー」を選択します。

省略時の設定では、月表示が画面に表示されます。図 6-5 に月表示を示します。

図 6-5 カレンダーの月表示

月表示では、現在の年と月の下にその月の日付と曜日表示します。現在日は枠で囲まれています。

6.3.1 カレンダーの画面間の移動

カレンダーには、月表示、日表示、および年表示の3つの表示画面があります。画面間や画面内での移動は、次のように行います。

- 画面間で移動するには、日付、年数、または月名をダブルクリックします。たとえば、月表示で日付をダブルクリックすると指定した日の日表示となり、日表示で年数をダブルクリックすると現在の年の年表示に変わります。

- 画面内で前後に移動するには、垂直または水平スクロール・バーを使用します。たとえば、日表示では、月名の下のバーまたは時間帯の右にあるバーを使用できます。
- 「表示」メニューを使用して、現在日あるいは選択日の日表示、または表示画面の種類（月、日、年表示）を指定して表示します。

6.3.2 予定の登録

日表示は、その日の時間帯を表示します。約束などの予定は、時間帯に直接入力できます。

短い予定を時間帯に登録するには、次のようにします。

1. 月表示の該当日をダブルクリックして、予定を登録する日の日表示にする。
図 6-6 にカレンダーの日表示を示す。

図 6-6 カレンダーの日表示

2. 目的の時間帯をクリックする。
3. 時間帯にテキストを入力する。

6.3 カレンダー

4. 時間帯の左の時刻が表示されている強調表示された部分をクリックする。これで、予定の登録は完了である。

1日の中に1つ以上の予定を登録すると、その日の日付番号が通常フォント (nn) からイタリック体 (*nn*) に変わります。カラー・ワークステーションでは、予定が登録されている日の日付が青で表示されます。この表示の違いによって、月表示と年表示において予定がある日とない日を区別することができます。

6.3.3 その他の機能の概要

カレンダーでは、次のことを行うこともできます。

- 予定エディタを使用して、予定に長いテキストを入力して登録する。
- 予定時刻に合わせてアラームを設定する。
- 重要日や休日などの特別な日にマークを設定する。
- 特定の時刻ではなく特定の日に関連する予定を日付ノートに登録する。
- 複数のカレンダーを使用する。
- 24時間表示を使用したり、一週間が月曜日以外の曜日で始まるように設定するなど、カレンダーをカスタマイズする。
- ハイパーアプリケーション機能を使用する。
- カレンダーの一部を印刷する。

これらの機能に関する詳細は、カレンダーのヘルプを参照してください。

6.4 カード管理

カード管理は、インデックス・カードの電子ボックスを作成するためのアプリケーションです。この電子ボックスを“カード・ファイル”と呼びます。カード・ファイルには、名前、住所、電話番号などの各種の情報を記録しておくことができる“カード”を入れます。

カード管理を起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「カード管理」を選択します。

「カード管理」ウィンドウが表示されます。最初は、カード・ファイルは空ですが、カードを追加していくと、インデックスの項目が書き込まれます。図 6-7 に「カード管理」ウィンドウを示します。

図 6-7 「カード管理」ウィンドウ

6.4.1 カード・ファイルの作成/オープン

最初にカード・ファイルを作成してからその中にカードを追加することもできますし、カードを作成してからそれをカード・ファイルに保管することもできます。

新しいカード・ファイルを作成したり、既存のカード・ファイルをオープンするには次のようにします。

1. 「ファイル」メニューから「オープン...」を選択する。「ファイルの選択」ダイアログ・ボックスが表示される。
2. 新しいカード・ファイルを作成するには、「選択」入力領域をクリックして、作成するカード・ファイル名を入力する。省略時の設定では、カード・ファイルのファイル・タイプはCARDとなる。

「了解」をクリックすると、ファイルが存在しないので新しいファイルをオープン中であることを知らせるメッセージが表示されます。そこで、「了解」をクリックします。

3. 既存のカード・ファイルをオープンするには、「ファイル」リスト・ボックス内の目的のファイル名をダブルクリックする。カード・ファイルが表示される。

6.4 カード管理

6.4.2 カードの作成

カードには人名や電話番号といった一連の情報が含まれており、これらのカードがいくつか集まってカード・ファイルを構成しています。

一連のカードを作成してそれらをカード・ファイルに保管したり、カード・ファイルをオープンしてカードをそれに追加したりできます。カードを追加すると、選択したトピックによりアルファベット順に並べ換えられます。一般的に、このトピックは人やビジネスなどの名称にします。個々のカードのトピックを表示すると、カード・ファイルのウィンドウにカード・ファイルの内容の一覧が表示されます。

カードを作成するには次のようにします。

1. 「カード」メニューから「カード作成...」を選択する。

新しいカードのインデックスを入力するためのダイアログ・ボックスが表示されます。

2. インデックスの入力領域にインデックスを入力する。
3. 「了解」をクリックする。

カード・ウィンドウがオープンされて、空のカードが表示されます。このカード・ウィンドウの最上部のタイトル・バーと「カード管理」ウィンドウの目次に入力したインデックス名が表示されます。

4. カードに情報を入力する。

[Return]キー、スペース・バーおよび**[Tab]**キーを使用して、テキストを入力します。カードには文字数にして最大 4000 文字、イメージにして 64 キロバイトまでの情報を入力することができます（詳細はカード管理のヘルプを参照）。

5. 「ファイル」メニューから「終了」を選択する。

カード・ウィンドウがクローズされて、カード・ファイルにそのカードが追加されます。

6.4.3 その他の機能の概要

カード管理で次のことを行うこともできます。

- カード・ファイル内のテキストを検索する。
- カードを編集したり名前を変更したりする。
- カードにイメージを入力する。
- ハイパーアプリケーション機能を使用する。

これらの機能に関する詳細は、カード管理のヘルプを参照してください。

6.5 CDA ビューア

CDA ビューアは、複合文書の内容やグラフィックス、イメージ、テキスト・ファイルを画面上に表示します。ビューアは CDA コンバータと一緒に動作するため、システム上にインストールされているコンバータによって、表示可能なファイルの種類が決まります。

CDA ビューアを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「CDA ビューア」を選択します。

CDA ビューアのウィンドウが表示されます。そして、表示するファイルを選択するための「オープン」ダイアログ・ボックスも表示されます。図 6-8 に CDA ビューアのウィンドウとダイアログ・ボックスを示します。

図 6-8 CDA ビューアのウィンドウ

6.5.1 ファイルの表示

ファイルを表示するための基本的な手順を次に示します。

1. 「ディレクトリ」リスト・ボックスで、表示したいファイルが入っているディレクトリ名をクリックする。
2. 「ファイル・フォーマット」リスト・ボックスで、ファイルに適用するフォーマット名（“キーワード”とも呼ばれる）をクリックする。

フォーマットがわからない場合は、第 6.5.2 項を参照してください。

3. 「ファイル」リスト・ボックスで、表示したいファイル名をダブル・クリックするか、ファイル名をクリックしてから「了解」をクリックする。

「オープン」ダイアログ・ボックスがクローズして、選択したファイルが CDA ビューアのウィンドウに表示されます。タイトル・バーに、ビューアのアイコンと同じように、ファイル名が示されます。現在表示しているページ数とページ総数がウィンドウの右下角に表示されます。

4. ウィンドウの最下部の内側にある矢印ボタンをクリックして、ファイルの中を 1 ページずつ移動する。外側の矢印ボタンを使用すると、ドキュメントの先頭または終端に移動することができる。

6.5.2 サポートされるファイル・フォーマットの指定

指定するファイル・フォーマットは、表示しようとするファイルを作成したアプリケーション（または変換）によって決まります。

次の表は、すべての日本語 VMS DECwindows Motif システム上の CDA コンバータによってサポートされるファイル・フォーマットをまとめたものです。システムによっては、この他のフォーマット用のコンバータをサポートしていることもあります。システム上でサポートされるすべてのフォーマットは、「オープン」ダイアログ・ボックスに表示されます。

キーワード	説明	省略時のファイル拡張子
DDIF	DECwrite や DECchart などのアプリケーションによって、またはそれらのアプリケーション向けに作成された DIGITAL Document Interchange Format ファイル	.DDIF
DTIF	DECdecision などのアプリケーションによって、またはそれらのアプリケーション向けに作成された DIGITAL Table Interchange Format ファイル	.DTIF
PS	PostScript をサポートしている出力装置に印刷するための PostScript ファイル	.PS
TEXT	テキスト・エディタで編集できるテキスト・ファイル	.TXT

注意

PostScript ファイルは、サーバ上に Display PostScript Extension がインストールされている場合にしか表示できません。なお、日本語 PostScript ファイルを表示することはできません。英語版 PostScript ファイルのみ表示することができます。

サーバがこのソフトウェアをもたない場合は、「オープン」ダイアログ・ボックスに“PS” (PostScript) は表示されません。

6.5.3 その他の機能の概要

CDA ビューアで次のことを行うこともできます。

- 表示しているファイルに関する情報を表示する。
- ファイルの処理中に発生した警告やエラーなどの診断情報を表示する。
- 表示しようとするファイル・フォーマットのすべての処理オプションを含むオプション・ファイルを作成する（処理オプションには、用紙サイズと用紙の向きが含まれます）。

これらの機能に関する詳細は、CDA ビューアのヘルプを参照してください。

6.6 時計

時計は、時間（アナログ形式とデジタル形式の両方）と日付を表示します。

時計を起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「時計」を選択します。

時計が画面に表示されます。図 6-9 に時計を示します。

図 6-9 時計

6.6 時計

6.6.1 その他の機能の概要

時計で次のことを行うこともできます。

- 時刻を 24 時間形式で表示する。
- 他の部分の表示を変更する。
- 予定を知らせるアラームを設定する。

これらの機能に関する詳細は、時計のヘルプを参照してください。

6.7 漢字端末エミュレータ

漢字端末エミュレータは、VT382 漢字端末をエミュレートしています。漢字端末エミュレータでは、DCL コマンドを入力することもできますし、他のコマンド行インターフェイスを使用することもできます。

漢字端末エミュレータのウィンドウを作成するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「漢字端末エミュレータ」を選択します。

漢字端末エミュレータのウィンドウが表示されます。図 6-10 に漢字端末エミュレータのウィンドウを示します。

図 6-10 漢字端末エミュレータのウィンドウ

ウィンドウへカーソルを移動してMB1をクリックすると、漢字端末エミュレータのウィンドウが入力フォーカスになります。

6.7.1 漢字端末エミュレータのオプションの概要

漢字端末エミュレータで次のことを行うこともできます。

- フォント・サイズやウィンドウ・タイトルなどの漢字端末エミュレータのウィンドウの体裁を変更する。
- カーソルの種類や水平および垂直スクロール・バーの有無などの漢字端末エミュレータの表示特性を変更する。
- ターミナル・タイプなどの漢字端末エミュレータの一般特性を変更する。
- <☒>キーの機能などの漢字端末エミュレータのキーボード・オプションを変更する。
- 各国語文字セット（NRCS）を選択する。
- グラフィック・オプションを選択する。
- プリンタ・オプションを選択する。
- プリンタに情報を送る。

これらの機能に関する詳細は、漢字端末エミュレータのヘルプを参照してください。

6.7 漢字端末エミュレータ

6.7.2 標準版と日本語版の相違

標準版 DECterm は VT320 をエミュレートしますが、漢字端末エミュレータ（日本語版 DECterm）は VT382 をエミュレートします。これに伴って、次のような操作上の相違点があります。

項目	標準版	日本語版
「オプション」メニュー		
	7-Bit NRCS Selection	なし
「ウィンドウ」ダイアログ・ボックス		
フォント	Big Font Little Font German Standard Font Normal Font Condensed Font Normal/80, Condensed/132	拡大フォント 標準フォント 縮小フォント
端末サイズ：行	24 48 72	24 32 48
端末サイズ：列	80 132	80 126
「一般」ダイアログ・ボックス		
	8-Bit Multinational Characters	なし
	8-Bit NRCS Characters	なし
	—	JIS ローマ字
	—	ASCII
	—	漢字端末
	—	カタカナ端末
	—	DEC 漢字 1978 年版
	—	DEC 漢字 1983 年版
ターミナル ID	DECterm ID VT340 ID VT330 ID VT320 ID VT240 ID VT220 ID VT125 ID VT102 ID VT101 ID VT100 ID	JDECterm ID VT382 ID VT320 ID VT286 ID VT284 ID VT282 ID VT220J ID VT102J ID VT102 ID VT101 ID VT100J ID VT100 ID VT80 ID
「グラフィック」ダイアログ・ボックス		
	—	ReGIS スクリーン・モード

6.8 リンクワークス・マネージャ

リンクワークス・マネージャを使用すると、ハイパー情報環境を制御することができます。ハイパー情報環境は、ハイパーアプリケーションの情報オブジェクト間に設定したリンクで構成されます。

この節を読む前に、第5章で説明した概念と手法を理解しておいてください。

リンクワークス・マネージャを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「リンクワークス・マネージャ」を選択します。

リンクワークス・マネージャのメインのウィンドウである環境ウィンドウが表示されます。図 6-11 に環境ウィンドウを示します。

図 6-11 環境ウィンドウ

6.8.1 環境ウィンドウの使い方

環境ウィンドウでは、次のことを行えます。

- ハイパー情報環境のオブジェクトについての情報を表示する。
- ハイパー情報環境にオブジェクトを追加したり、ハイパー情報環境からオブジェクトを削除したりする。
- すべてのハイパーアプリケーションのハイパーアプリケーション特性の省略時の値を設定する。
- 1 つ以上のリンクベース・ウィンドウをオープンする。

6.8 リンクワークス・マネージャ

6.8.2 環境ウィンドウとリンクベース・ウィンドウの関係

環境ウィンドウは、ハイパー情報環境のリンクネットとパスを示します。リンクネット・リストとパス・リストを作成して、それをハイパー情報環境に入れておけば、環境ウィンドウは、リンクネットとパスを該当するリストにグループ分けします。

環境ウィンドウからオープンできるリンクベース・ウィンドウは、特定のリンクベース中のリンクネット、パス、リンクネット・リスト、パス・リストを表示します。複数のリンクベースにアクセスすれば、複数のリンクベース・ウィンドウをオープンできますが、環境ウィンドウは1つしかもてません。

「リンクワークス・セットアップ」アプリケーションを初めて起動すると、省略時のリンクベースを作成し、そのリンクベース中にパーソナル・リンクと呼ばれる省略時のリンクネットを作成してから、パーソナル・リンクのリンクネットをリンクワークス環境に追加します。

さらにリンクネット、リンクネット・リスト、パス、パス・リストを作成したり、これらのオブジェクトを変更したりするには、リンクワークス・マネージャのリンクベース・ウィンドウを使用しなければなりません。リンクベース中のオブジェクトを作成または変更したら、ハイパー情報環境で使用できるように、そのオブジェクトを環境ウィンドウに複写しなければなりません。

6.8.3 リンクベース・ウィンドウの使い方

リンクベース・ウィンドウは、特定のリンクベースの内容を表示します。

リンクベース・ウィンドウをオープンするには、環境ウィンドウでリンクベース名をダブルクリックします。

図 6-12 にリンクベース・ウィンドウを示します。

図 6-12 リンクベース・ウィンドウ

6.8.4 新しいリンクベースの作成

新しいリンクベースを作成するには、環境ウィンドウの「ファイル」メニューから「リンクベースのオープン...」を選択します。ダイアログ・ボックスが現れます。

ダイアログ・ボックスの「選択」入力領域に既存のリンクベース・ファイル名と一致しないファイル名を入力すると、リンクワークス・マネージャはリンクベースを作成して、それをリンクベース・ウィンドウでオープンします。ここで、新しいリンクベースにオブジェクトを作成することができます。

6.8.5 リンクベース・オブジェクトの作成

リンクネット、リンクネット・リスト、パス、パス・リストを作成するには、「作成」メニューを選択します。「作成」メニューは、それぞれのオブジェクト・タイプごとに1つずつ項目をもっています。

「作成」メニューから項目を選択します。表示されたダイアログ・ボックスで、作成しようとするオブジェクトの名前と説明（省略可能）を入力します。

オブジェクトや他のリストをグループ分けするには、リストを使用します。リンクネット・リストには、リンクネットとリンクネット・リストを入れることができ、パス・リストには、パスとパス・リストを入れることができます。

リンクベース・ウィンドウでは、最初の（字下げなし）欄にリストされた項目がオブジェクトであり、字下げされた欄の項目がオブジェクトに対するポインタです。

オブジェクトをリンクネット・リストまたはパス・リストに入れるには、次のようにします。

1. リストに入れるオブジェクト（たとえば、リンクネット）を選択する。

6.8 リンクワークス・マネージャ

2. 「編集」メニューから「複写」を選択する。
3. オブジェクトを入れるオブジェクト（たとえば、リンクネット・リスト）を選択する。
4. 「編集」メニューから「貼付け」を選択する。

リストに入れようとするオブジェクトごとに上記の手順を繰り返します。

注意

リンクベース・ウィンドウでの変更内容は、それを保管するか、リンクベースをクローズするか、あるいはリンクベース・ウィンドウを終了するまで、リンクベースに格納されません。オブジェクトを作成して、それをハイパー情報環境に直接に入れる場合は、「ファイル」メニューの「保管」を使用してからでないと、オブジェクトを環境ウィンドウに複写することはできません。オブジェクトの複写に関する詳細は、第 6.8.6 項を参照してください。

6.8.6 オブジェクトのハイパー情報環境への複写

リンクベース・オブジェクトをハイパー情報環境に入れるには、次のようにしてリンクベース・オブジェクトをリンクベース・ウィンドウから環境ウィンドウに複写しなければなりません。

1. リンクベース・ウィンドウでポインタを該当するオブジェクトに移動する。
2. MB1 をクリックして、オブジェクトを選択する。
3. 環境ウィンドウの中のオブジェクトが表示されるべき位置にポインタを移動する。
4. MB2 をクリックして、オブジェクトを環境ウィンドウに複写する。

6.8.7 パスの使い方

パスとは、ナビゲーション手順が格納されたシーケンス（「訪問」や「移動」操作）をいいます。パスを作成して、その中に手順を格納しておけば、必要に応じて後でそのパスをたどることができます。

意味のある手順を格納したパスを作成するには、手順を実際に記録する前に、予備作業をしておく必要があります。パスを自分にとっても他人にとっても有用なものにするには、“フロー”がパスを追跡するユーザに役立つものになるように、パスの中に正しい手順を正しい順序に入れておく必要があります。

パスに手順を記録するには、次のようにします。

1. リンクしようとするオブジェクトを識別する。
たとえば、いくつかのブックリーダー・トピックと特定のトピックを説明したり図示したりするカード管理のカードを識別します。

2. オブジェクトを表示する順序を識別する。
3. リンクを作成する。
最初のオブジェクトをリンクのソースにして、2番目のオブジェクトをターゲットにします。2番目のオブジェクトを別のリンクのソースにして、3番目のオブジェクトをターゲットにします。3番目のオブジェクトを別のリンクのソースにして、4番目のオブジェクトをターゲットにします。最後のオブジェクトをリンクするまで、この操作を続けます。
4. (まだ行っていなければ) パスを作成 (第 6.8.5 項を参照) して、そのパスをハイパー情報環境に複写 (第 6.8.6 項を参照) する。
5. 環境ウィンドウの「記録」欄をダブルクリックして、パスへ記録できるようにする。
6. 該当するハイパーアプリケーションを使用して、最初のオブジェクトを選択して表示する。
たとえば、ブックリーダを起動して該当する本をオープンし、使用するパスの表題を紹介するトピックを読みます。
7. ハイパーアプリケーションの「リンク」メニューから「移動」または「訪問」を選択して、2番目のオブジェクトを表示する。
パスに2つ以上のハイパーアプリケーションからのオブジェクトが入ってる場合は、「移動」を選択した方が画面の散乱が少なく済みます。
8. 表示されていたオブジェクトを選択する。
9. ハイパーアプリケーションの「リンク」メニューから「移動」または「訪問」を選択して、次のオブジェクトを表示する。
10. パスの中の最後のオブジェクトを表示するまで、手順 8 ~ 9 を必要なだけ繰り返す。
11. 「記録」欄でダブルクリックして、パスへ手順を記録できなくする。

6.8.8 パスの追跡

パスを追跡するには、次のようにします。

1. (まだ行っていなければ) パスをハイパー情報環境に含める (第 6.8.6 項を参照)。
2. 環境ウィンドウの「アクティブ」欄をダブルクリックして、そのパスをアクティブにする。他のパスがアクティブになっている場合は、それをダブルクリックして、非アクティブにする。
3. アクティブなハイパーアプリケーションの「リンク」メニューの「次のステップ」を使用して、次のステップに進む。

パスは手順どおりに追跡しなければなりません。ステップを飛ばしたり、一部のステップだけを繰り返すことはできません。

6.8 リンクワークス・マネージャ

パスを始めから追跡したい場合は、「アクティブ」欄をダブルクリックして、そのパスを非アクティブにしてから、もう一度ダブルクリックして、再度アクティブにします。ここで、手順を前に進めれば、パスの最初の手順にもどれます。

パスの追跡が終了したら、環境ウィンドウの「アクティブ」欄をダブルクリックして、パスを非アクティブにできます。

6.8.9 その他の機能の概要

リンクワークス・マネージャで次のことを行うこともできます。

- リンクワークス・マネージャとハイパー情報環境をカスタマイズする。
- 他のオブジェクトにリンクされているハイパーアプリケーション中のオブジェクトを強調表示する。

これらの機能に関する詳細は、リンクワークス・マネージャのヘルプを参照してください。

6.9 電子メール

電子メールを使用すると、他のコンピュータ・ユーザとメッセージを交換することができます。

電子メールを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「電子メール」を選択します。電子メールのメイン・ウィンドウが表示されます。図 6-13 に電子メールのメイン・ウィンドウを示します。

図 6-13 電子メールのメイン・ウィンドウ

6.9.1 メイン・ウィンドウ

メイン・ウィンドウには、電子メールのドロア、フォルダ、メッセージの一覧が表示されます。ドロアとフォルダは、メール・メッセージを整理するのに役に立ちます。電子メールのドロアとフォルダは、オフィスのファイル・キャビネットの引き出しとフォルダと同じように使用できます。関連するトピックに関するすべてのメッセージを1つのフォルダに格納して、関連するフォルダを1つのドロアにまとめます。

6.9.2 ドロアとフォルダ

ドロアやフォルダをオープンするとその内容が表示され、ドロアやフォルダをクローズするとその内容が隠されます。ドロアまたはフォルダをオープンするには、ドロアまたはフォルダ名の上でMB1をダブルクリックします。ドロアまたはフォルダをクローズするには、オープンされているドロアまたはフォルダの名前の上でMB1をダブルクリックします。

電子メールを初めて起動すると、MAILという名前のドロアが自動的に作成されてオープンされます。INBOXとWASTEBASKETというMAILドロア中の2つのオブジェクトが、ドロア名の下に字下げされて表示されます。INBOXフォルダには送信されてきたメッセージが入り、WASTEBASKETには削除したメッセージが入りません。

INBOXの前にあるオープン・フォルダ・アイコンによって示されるように、INBOXフォルダは電子メールを起動した際に自動的にオープンされます。INBOXフォルダの中にメッセージが入っている場合は、その一覧が表示されます。メッセージは、受信した日付順に表示されます。

6.9.3 メッセージの作成

同じシステム上または他のシステム上のユーザにメール・メッセージを送信するには、メイン・ウィンドウの「作成 - 送信」ボタンをクリックします。「メッセージ作成」ウィンドウがオープンされます。図 6-14 に「メッセージ作成」ウィンドウを示します。

図 6-14 「メッセージ作成」ウィンドウ

「メッセージ作成」ウィンドウは、エンベロープ領域とメッセージ領域の 2 つに分割されています。エンベロープ領域には、次のような項目があります。

フィールド	説明
From:	ユーザ名
To:	メッセージを受け取る 1 人または複数のユーザ名。ユーザ名をコンマで区切れば、複数のユーザに同じメッセージを送信することができる。
CC:	メッセージの写しを受信してほしい 1 人または複数のユーザ名（省略可能）
Subject:	メッセージの表題（省略可能）

フィールドにテキストを入力するには、目的のフィールドを指して MB1 をクリックします。

次のフィールドに進むには `Tab` キーを使用し、前のフィールドにもどるには `Shift+Tab` キーを使用します。間違いを訂正するには、第 2 章の第 2.9 節で説明した DECwindows 編集コマンドを使用します。エンベロープが完成したら、`Tab` キーを押してメッセージ領域に進みます。

メッセージ領域には、メッセージのテキストを入力します。

6.9.4 メッセージの送信

メッセージを送信するには、「送信」ボタンをクリックします。送信作業の進捗を通知するメッセージ・ボックスが表示されます。メッセージ・ボックスをクローズするには、「終了」ボタンをクリックします。

6.9.5 メッセージの選択

オブジェクト（メッセージ、ドロア、フォルダ）で操作を行う前に、まず対象となるオブジェクトを選択しておかなくてはなりません。

メッセージ、フォルダ、ドロアを選択するには、メイン・ウィンドウで目的のオブジェクトを指してMB1をクリックします。

複数のオブジェクトを選択するには、**Ctrl**キーを押しながら1つ1つのオブジェクトの上でMB1をクリックします。

連続する複数のドロア、フォルダ、メッセージを選択するには、最初に選択するオブジェクトの上でMB1をクリックし、そして最後に選択するオブジェクトの上で**Shift**キーを押しながらMB1をクリックします。

オープンしているフォルダ内のすべてのメッセージを選択するには、メイン・ウィンドウの「編集」メニューから「すべて選択」を選択します。2つ以上のフォルダがオープンされている場合は、それらのフォルダ内のすべてのメッセージが選択されます。

オブジェクトの選択を取り消すには、MB1をクリックして別のオブジェクトを選択するか、選択されたオブジェクトを指して**Ctrl**キーを押しながらMB1をクリックします。

6.9.6 メッセージの表示

電子メールを使って、古いメール・メッセージや新しいメール・メッセージを読むことができます。新しいメッセージはINBOXフォルダに追加され、古いメッセージ（読んだメッセージ）は他の場所に移動するまでMAILフォルダに保存されます。

6.9.7 新しいメッセージの表示

新しいメッセージを受信すると、メッセージ・ウィンドウにメッセージが表示されます。メッセージ・ウィンドウに関しては、第3章を参照してください。新しいメッセージ数は、電子メールのアイコンに表示されます。

6.9 電子メール

新しいメッセージを読むには、(まだであれば)「電子メール」アプリケーションを起動します。INBOX フォルダ内のメッセージの一覧が表示され、読んでいないメッセージは、宛名が書かれた封筒に似たアイコンで示されます。読むメッセージの上でMB1をダブルクリックすると、「メッセージ表示」ウィンドウにメッセージが表示されます。図 6-15 に「メッセージ表示」ウィンドウを示します。

図 6-15 「メッセージ表示」ウィンドウ

6.9.8 古いメッセージの表示

古いメッセージ(すでに読んだメッセージ)を読むには、そのメッセージが入っているドロアとフォルダをオープンして、目的のメッセージをダブルクリックします。「メッセージ表示」ウィンドウにメッセージが表示されます。

6.9.9 その他の機能の概要

電子メールで次のことを行うこともできます。

- メッセージを他のユーザに転送したりメッセージに返信したりする。
- 送信するメッセージにファイルを取り込む。
- メッセージを配布先リストに送信する。
- メッセージをドロアとフォルダに格納する。
- メッセージを削除する。

- メッセージをファイルに書き出す。
- 英語版 PostScript ファイルを表示する。
- ハイパーアプリケーション機能を使用する。
- 重要なメッセージにマークを設定する。
- アクセラレータ・キーを使用する。

これらの機能に関する詳細は、電子メールのヘルプを参照してください。

6.10 ノートパッド

ノートパッドは、ノートや手紙の作成、プログラムの作成などの日常業務を行うことができるエディタです。あとでファイルの出力、修正および統合を行うために、前もって編集中のファイルを保管することができます。「ヘルプ」を参照することにより、ノートパッド・エディタについてより詳しい情報が得られます。

ノートパッドを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「ノートパッド」を選択します。ノートパッド・ウィンドウが現れます。このウィンドウには、ファイルの編集やノートパッド・エディタのヘルプを表示するための6つのメニューがあります。

それらのメニューの機能を以下に示します。

- 「ファイル」 - 「ファイル」メニューではファイル操作を行うことができます。新規あるいは既存のファイルのオープン、すでに存在するファイルの編集中のファイルへの取込み、新規あるいは既存のファイルの保管およびファイルを元に戻してノートパッド・ウィンドウを終了することができます。
- 「編集」 - 「編集」メニューでは、テキストの選択、すでに選択したテキストの複写、貼付けあるいは消去、最後に行った編集操作の取消しおよび複数の編集操作の取消しができます。
- 「検索」 - 「検索」メニューでは、テキストの検索およびテキストの他のテキストへの置換ができます。
- 「移動」 - 「移動」メニューではカーソルをファイル中の特定の位置に移動できます。たとえばカーソルを先頭、最後あるいは選択した行に移動できます。また、ノートパッドを2つ以上の表示領域に分割、あるいはビューを削除することができます。
- 「設定」 - 「設定」メニューでは、ノートパッド・エディタがどのように検索およびワードラップ操作を行うかを指定できます。また、ノートパッド・エディタ・ウィンドウのフォント・サイズを変更、保管および復元することができます。
- 「ヘルプ」 - 「ヘルプ」メニューでは、ノートパッド・エディタにヘルプを表示し、現在のノートパッド・エディタのバージョンに関する情報を表示します。

6.10 ノートパッド

6.10.1 ジャーナル・ファイルの使用

ノートパッドは、編集セッション中に行なわれたすべての編集操作をジャーナル・ファイルに記録します。もしシステムの障害により編集操作が異常終了した場合は、ノートパッド・エディタはジャーナル・ファイルを保管します。これらの機能に関する詳細は、ノートパッドのヘルプを参照してください。

6.11 ペイント

ペイントは、各種の作画ツールを使用して簡単な絵を作成するためのグラフィックス・アプリケーションです。

ペイントを起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「ペイント」を選択します。

「ペイント」ウィンドウがオープンされて、そこに絵を描くツールの一覧（“ツール・パレット”と呼ぶ）と作業領域が表示されます。図 6-16 に「ペイント」ウィンドウを示します。

図 6-16 「ペイント」ウィンドウ

「ペイント」ウィンドウにはキャンパスの一部が見えています。ツール・パレットの下に、キャンパス全体中のどの部分が表示されているかが太枠の四角で示されています。

キャンパス内の他の部分を表示するには、太枠の四角内で MB1 を押し、その四角を希望の位置にドラッグします。

6.11.1 ツールの種類と選択

ツール・パレットには各種の作画ツールがあります。ペイントを初めて起動すると、ブラシ・ツールが強調表示されて、現在の省略時の設定であることが示されます。

ツールを使用するには、ツール・パレット上の目的のツールの上でクリックします。

以下にツール・パレットの左上角にあるボックス・ツールから順に各ツールについて説明します。

ボックス

編集する長方形の領域を選択する。

はさみ

編集する任意の形状の領域を選択する。

スプレー

現在の枠パターンで塗る。

鉛筆

細い線を描く。90度の角度をなす線を描くには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

消しゴム

ポインタでなぞった部分のイメージを消す。90度の角度をなす方向で消すには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

ブラシ

筆で自由に描く。90度の角度をなす方向に描くには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

テキスト

キーボードから入力した文字を描く。

バケツ

閉じた領域を現在の塗りつぶしパターンで塗りつぶす。

直線

直線を描く。45度または90度の角度をなす方向に描くには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

円弧

MB1 をクリックした後の最初の動きに応じて、水平または垂直方向の円弧を描く。円の4分の1を描くには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

長方形

長方形を描く。正方形を描くには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

正方形

正方形を描く。

楕円

楕円を描く。円を描くには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

円

円を描く。

曲線

指定した線の幅とパターンで自由に線を描く。

多角形

多辺図形を描く。それぞれの角を MB1 をクリックして指定する。図形を完成させるには、開始点でクリックする。図形を閉じずに終了するには、開始点以外の場所で MB1 をダブルクリックする。45 度または 90 度の角度をなす方向に描くには、ポインタの位置を決めてからシフト・クリックする。

スポイト

現在のピクセルの色を取り出す（カラー・モニタの場合のみ）。

6.11.2 絵の保管

作成した絵を保管するには、次のようにします。

1. 「ファイル」メニューから「別名保管...」を選択する。
「別名保管」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「選択」入力領域に、絵を保管するファイル名を入力する。
省略時のファイルの拡張子は IMG です。
3. 「了解」をクリックする。

6.11.3 その他の機能の概要

ペイントで次のことを行うこともできます。

- 絵を印刷する。
- カラー・モニタの場合は、色を使用する。
- 独自のパターンを作成する。
- イメージを移動したり複写したりする。
- 絵を切り出す。

6.11 ペイント

- 個々のピクセルを編集することによって、絵を詳細に編集する。
- アクセレータ・キーを使用する。

これらの機能に関する詳細は、ペイントのヘルプを参照してください。

6.12 画面印刷

画面印刷を使用すると、画面の全体または一部をデータとして取り込んで、そのデータをファイルに格納したり、プリンタに印刷したりすることができます。

画面印刷を起動するには、セッション・マネージャの「アプリケーション」メニューから「画面印刷」を選択します。

画面印刷のオプションと設定値が「画面印刷」ウィンドウに表示されます。図 6-17 に「画面印刷」ウィンドウを示します。

図 6-17 「画面印刷」ウィンドウ

省略時の設定では、画面印刷のデータが PostScript プリンタの標準形式で格納されま
す。

6.12.1 画面全体の撮り方

画面の全体を1つのファイルに格納するには、次のようにします。

1. ウィンドウを画面上に配置する。
2. 「画面印刷」メニューから「画面全体を保管」を選択する。

画面全体が、「出力ファイル名」入力領域に示されている名前の出力ファイルにデータとして書き込まれます。

6.12.2 その他の機能の概要

画面印刷では次のことを行うこともできます。

- 画面のデータをファイルに格納して、それを直接プリント・キューに送る。
- 画面の一部をデータとして取り込む。
- 一定時間後の画面をデータとして取り込む。
- 画面印刷の設定値を変更する。

これらの機能に関する詳細は、画面印刷のヘルプを参照してください。

6.13 パズル

パズルは、番号の書いてある四角い駒を並べ替えるパズル・ゲームのビデオ版です。

パズルを起動するには、次のようにします。

1. セッション・マネージャの「オプション」メニューから「メニュー・バー...」を選択する。

ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 「ゲーム」をクリックする。
3. 追加矢印（右向きの三角形）をクリックする。
4. 「了解」をクリックする。

セッション・マネージャのメニュー・バーに「ゲーム」メニューが表示されます。

5. セッション・マネージャの「ゲーム」メニューからパズルを選択する。

画面上にパズルが表示されます。図 6-18 にパズルのウィンドウを示します。

6.13 パズル

図 6-18 「パズル」ウィンドウ

6.13.1 パズルの遊び方

パズルの駒は無作意に並んでいます。ゲームの方法は、なるべく少ない操作回数で駒を昇順に並べることです。パズルは、駒を動かした回数を記録しています。

動かしたい駒の上でクリックしてください。動かせるのは、空いている所に隣接している駒に限られますが、一度に列全体を動かすこともできます。

日本語入力機能

本付録では、日本語 DECwindows Motif で提供する日本語入力機能について説明します。

日本語 DECwindows Motif では、テキストの入力を行うことのできる箇所で日本語を入力することができます。日本語の入力は、ローマ字あるいは、かなで“読み”を入力してから“変換キー”を使用して漢字、ひらがな、カタカナなどに変換します。日本語入力の変換機能を表 A-1 に示します。

表 A-1 日本語入力の変換機能

機能	説明
漢字変換， 文節次候補	漢字に変換します。 続けてもう一度押すと、次の候補が表示されます。
ひらがな変換， 文節ひらがな変換	ひらがなに変換します。
カタカナ変換， 文節カタカナ変換	カタカナに変換します。
全角変換	英数記号を全角に変換します。
半角変換	英数記号を半角に変換します。
記号変換， コード入力	1～3文字の英数記号を特殊な記号に変換します（第 A.3.3 項を参照）。あるいは、漢字コードから漢字に変換します（第 A.3.4 項を参照）。
大文字変換	英字を大文字に変換します。
小文字変換	英字を小文字に変換します。
次文節移動	漢字変換した文字列に複数の文節がある場合に、次の文節に移動します（次の文節を変換対象とする）。
前文節移動	漢字変換した文字列に複数の文節がある場合に、前の文節に移動します（前の文節を変換対象とする）。
文節縮小	変換対象である文節を縮小します。
文節拡大	変換対象である文節を拡大します。
文節前候補	一つ前の漢字変換の候補を表示します。
全文確定	入力した読み全体の変換を確定します。
文節確定	現在の變換対象である文節の変換を確定します（文節が複数ある場合は、次の文節が變換対象となります）。
変換取消， 無変換	読みを変換した直後は、変換開始前の読みを入力した状態にもどします（読みを修正することができます）。 読みを入力した直後は、入力した文字のまま確定します。

A.1 DEC 日本語入力サーバの使い方

DEC 日本語入力サーバは、X11R5 で採用された国際化入力方式である XIM に対応した日本語入力サーバです。

日本語 DECwindows Motif V1.2 では、XmText、XmTextField および DXmCSText ウィジェットで日本語入力ができます。

日本語入力を行うには、アプリケーションが表示されるディスプレイ・サーバ上にあらかじめ DEC 日本語入力サーバが起動されている必要があります。

A.1.1 日本語入力サーバ

セッション・マネージャや各アプリケーションで日本語入力を行うには、それらを表示しているディスプレイ上で日本語入力サーバが動作している必要があります。

1 つの日本語入力サーバが同一ディスプレイ上の複数のアプリケーションに対して日本語入力機能を提供します。この場合、リモート・ノードからネットワークを経由して同一ディスプレイに表示されているアプリケーションも日本語入力サーバによる日本語入力を受けることができます。

日本語 DECwindows Motif は、DEC 日本語入力サーバ (DECW\$JIM) を提供します。DEC 日本語入力サーバは、セッション・マネージャの自動起動の項目に含まれるよう設定されていますので、セッションを開始すると自動的に起動されます。ただし、日本語 DECwindows Motif の以前のバージョンでセッション・マネージャのカスタマイズを行っているユーザの場合、DECW\$JIM が自動起動されない場合があります。この場合、セッション・マネージャの「設定」メニューから「自動起動...」を選択し、DEC 日本語入力サーバを自動起動項目に加え、その設定を保存してください。

DEC 日本語入力サーバは以下のコマンドで起動することもできます。

```
SPAWN/NOWAIT RUN SYS$SYSTEM:DECW$JIM
```

A.1.2 DEC 日本語入力サーバによる日本語入力

DEC 日本語入力サーバが動作しているディスプレイでアプリケーションを起動し、文字入力領域にフォーカスをあてると、DEC 日本語入力サーバのタイトルが入力スタイルを表示するよう変化します。この状態で、日本語入力が可能です。DEC 日本語入力サーバは on-the-spot、over-the-spot、root-window の 3 つの入力スタイルをサポートしており、省略時のスタイルは over-the-spot です。

over-the-spot のスタイルでは、日本語変換はアプリケーションのウィンドウの上で行われますので、特に DEC 日本語入力サーバを意識せずに日本語入力を行うことができます。ただし、変換中の文字列は、アプリケーションのウィンドウの上に表示されるので、既に存在する文字列の途中に文字を挿入する場合は変換が確定するまで、既存の文字列の一部が被り隠されることがあります。

on-the-spot スタイルでは、日本語変換はアプリケーションのウィンドウ内で行われ、特に DEC 日本語入力サーバを意識せずに日本語入力を行うことができます。既に存在する文字列の途中に文字を入力する場合でも、既存の文字列の一部が被り隠されることはありません。

root-window スタイルでは、アプリケーションのウィンドウに入力された文字列は、DEC 日本語入力サーバのウィンドウ内に表示されます。日本語変換が確定するまでは、変換中の文字列はすべて DEC 日本語入力サーバのウィンドウ内に表示されますので注意が必要です。

入力スタイルの設定方法については第 3.8 節、または第 A.1.4 項を参照してください。

A.1.3 DEC 日本語入力サーバの設定

DEC 日本語入力サーバの左下の領域には「漢字変換」あるいは「ASCII」のいずれかの文字列が表示されます。「漢字変換」が表示されている場合、アプリケーションは DEC 日本語入力サーバを使用して日本語を入力することができます。「ASCII」が表示されている場合は、日本語入力できません。

「ASCII」の状態から「漢字変換」の状態に変更するためのキーを始動キーと呼びます。逆に「漢字変換」から「ASCII」の状態に変更するためのキーを終了キーと呼びます。

始動キーおよび終了キーの標準値は、Shift-Space (Shiftキーを押しながらスペース・バーを押す) です。アプリケーション起動時には、DEC 日本語入力サーバの状態は「漢字変換」になっています。始動キーおよび終了キーの設定の変更は「起動キー：設定」ダイアログボックスで行います。「起動キー：設定」ダイアログボックスは、「オプション」メニューから「キー設定」メニューを選択することにより表示されます。「起動キー：設定」ダイアログボックスで行った始動キーと終了キーの変更は、すべてのアプリケーションに対して有効です。

DEC 日本語入力サーバは、ユーザ・キー定義ライブラリ IMLIB を使用しています。ユーザ・キー定義は、DEC 日本語入力サーバを起動したユーザのキー定義が使用されます。IMLIB を使用した日本語入力の変換キー、ユーザ・キー定義については『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』を参照してください。

A.1 DEC 日本語入力サーバの使い方

「オプション」メニューから「キー定義」を選択することにより、変換キーを変更することができます。これにより変更できるのは変換キーの定義のみで、エコーの仕方の変更はできません。変換キーの変更は、変更時に日本語を入力していたウィジェットにのみ適用されます。

アプリケーションの入力スタイルが Root の場合、DEC 日本語入力サーバのウインドウ内にプリエディット用の領域が作成されます。プリエディットを確定しアプリケーションに入力を行うためのキーを確定キーと呼びます。確定キーの標準値は `Return` キーです。

確定キーの変更は「起動キー：設定」ダイアログボックスで行います。変更した確定キーは、Root 入力スタイルを使用するすべてのアプリケーションに適用されます。

A.1.4 入力スタイル

X11R5 ではテキストウィンドウへの入力スタイルとして、`on-the-spot`、`over-the-spot`、`off-the-spot`、`root-window` を挙げています。DEC 日本語入力サーバでは、`on-the-spot`、`over-the-spot`、`root-window` をサポートしています。また、X11R5 ではプリエディットの状態表示としていくつか挙げていますが、DEC 日本語入力サーバではいづれもサポートしていません。DEC 日本語入力サーバでは、接続しているクライアントの状態を表示する機能を持っています。

`XmText`、`XmTextField` および `DXmCSText` ウィジェットでは、`VendorShell` ウィジェットの `XmNpreeditType` リソースを使用して入力スタイルの設定を行うことができます。`XmNpreeditType` リソースには次のいずれかの値を指定します。

`OnTheSpot`
`OverTheSpot`
`Root`
`OffTheSpot`

また、`XmNpreeditType` リソースには複数の値を設定することも可能です。複数の値を設定する場合には、それぞれの値をカンマ "," で区切ってください。

省略時の入力スタイルは `OverTheSpot,OffTheSpot,Root` です。`OverTheSpot` の場合、入力交換中の文字列はすでに存在しているテキストの上に上書きされ、変換が確定すると全体のテキストへ挿入されます。

A.1.5 over-the-spot 入力スタイル使用時の注意

DEC 日本語入力サーバを用いて、`over-the-spot` 入力スタイルで文字を入力する場合、`preedit` 中の文字は `Text widget` 上に表示されていても、実際には `Text widget` には入力されていないので、`XmTextGetString` 等の関数を呼んでもその文字は受け取れません。`preedit` 中の文字とはアンダーラインが引かれてる文字です。

文字の入力から次の操作へ移る前に preedit 状態を終了させ Text widget への入力を完了させる必要があります。

日本語 OpenVMS の IMLIB の TARO キー以外のキー定義の初期状態では、preedit を終了させるキーの定義がありません。そこで、そのようなキーの定義を行う必要があります。

以下は、日本語 OpenVMS V6.0 のシステムで、標準の JVMS キー定義ファイルを変更して、preedit を終了させるキーを gold + Ctrl/N として追加する例です。IMLIB のキー定義について詳しくは『ユーザ・キー定義利用者の手引き』を参照してください。

1. JVMS キー用のマクロ・ファイルと本体を自分のログイン・ディレクトリにコピーします。

```
$ SET DEFAULT SYS$LOGIN:
$ COPY JSY$EXAMPLES:IM$KEY_JVMS_LEVEL2.DAT MY_KEY.DAT
$ COPY JSY$EXAMPLES:IM$KEY_COMMON_BODY_LEVEL2.DAT MY_KEY_BODY.DAT
```

2. エディタを使って MY_KEY.DAT を変更します。

- o 以下の行を追加

```
owari = gold + CTRL_N ! 漢字変換終了
```

- o 以下の行を変更

```
(変更前)%INCLUDE (IM$EXAMPLES:IM$KEY_COMMON_BODY_LEVEL2.DAT)
(変更後)%INCLUDE (SYS$LOGIN:MY_KEY_BODY.DAT)
```

3. エディタを使って MY_KEY_BODY.DAT を変更します。

- o 以下の行を inputting, converting, kk_converting STATE に追加

```
owari : DONE, GOTO "initial";
```

4. 変更されたファイルをコンパイルします。

```
$ KEYBIND MY_KEY.DAT
```

5. profile を自分のログイン・ディレクトリにコピーします。すでにログイン・ディレクトリにある場合は必要ありません。

```
$ COPY SYS$LIBRARY:IM$PROFILE.DAT SYS$LOGIN:
```

6. エディタを使って、ログイン・ディレクトリにある IMSPROFILE.DAT の中の次の行を変更します。

```
(変更前) DEC-JAPANESE.KEY.keybind : IM$KEY_JVMS_LEVEL2
(変更後) DEC-JAPANESE.KEY.keybind : SYS$LOGIN:MY_KEY
```

A.2 日本語入力の変換キー

テキストを入力する際に使用する変換キーには、次の4つの変換キー定義があります。このうちのいずれか1つを使用することができます。特に何も指定しない限り、変換キー定義はJVMSとなります。変換キー定義の変更方法に関しては第A.2.1項を参照してください。

- JVMS キー (省略時設定)

日本語VMS標準の変換キー定義です。変換キーは表A-2の通りです。

- EVEJ キー

EVEJエディタの変換キー定義です。日本語EVEのEVEJキーパッド・モードで使われています。変換キーは表A-3の通りです。

- KEYPAD キー

VTシリーズ端末の数字キーパッドを使用したキー定義です。変換キーは表A-4の通りです。

- TARO キー

ワープロ・ソフトの一太郎¹の変換キー定義に似た変換キー定義です。変換キーは表A-5の通りです。

- CTRL キー

コントロール・キーを使用したキー定義です。変換キーは表A-6の通りです。

注意

ワークステーションで日本語キーボードを使う場合は、『リリース・ノート』の「日本語キーボード」節に記述されている省略時の設定を行ってください。

¹ 一太郎は株式会社ジャストシステムの登録商標です。

表 A-2 JVMS 変換キ一定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	Ctrl+ スペース
漢字候補一覧 ²	Ctrl+'
ひらがな変換/文節ひらがな変換	Ctrl+L
カタカナ変換/文節カタカナ変換	Ctrl+K
半角カナ変換	Ctrl+G Ctrl+K
全角変換	Ctrl+F
半角変換	Ctrl+G Ctrl+F
記号変換/コード入力	Ctrl+]
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	Ctrl+P
前文節移動	Ctrl+G Ctrl+P
文節縮小	Ctrl+/
文節拡大	Ctrl+G Ctrl+/
文節前候補	Ctrl+G Ctrl+ スペース または Ctrl+G Ctrl+L
全文確定	Ctrl+G Ctrl+N
文節確定	—
変換取消/無変換	Ctrl+N

¹ Ctrl+ スペース はCtrlキーを押しながらスペースキーを押すことを示します。
Ctrl+G Ctrl+KはCtrl+Gを押した後にCtrl+Kを押すことを示します。

²'はキーボードの左上のキーです。

A.2 日本語入力の変換キー

表 A-3 EVEJ 変換キー定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	Ctrl+ スペース
漢字候補一覧 ²	Ctrl+'
ひらがな変換/文節ひらがな変換	Ctrl+H
カタカナ変換/文節カタカナ変換	Ctrl+K
半角カナ変換	PF1 Ctrl+K
全角変換	Ctrl+F
半角変換	Ctrl+E
記号変換/コード入力	PF1 Z
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	Ctrl+P
前文節移動	PF1 Ctrl+P
文節縮小	Ctrl+A
文節拡大	PF1 Ctrl+A
文節前候補	PF1 Ctrl+ スペース
全文確定	—
文節確定	—
変換取消/無変換	Ctrl+N

¹ Ctrl+ スペース はCtrlキーを押しながらスペースキーを押すことを示します。
PF1 ZはPF1を押した後にZを押すことを示します。

² 'はキーボードの左上のキーです。

表 A-4 KEYPAD 変換キ一定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	[KP7]
漢字候補一覧 ²	[Ctrl+']
ひらがな変換/文節ひらがな変換	[KP1]
カタカナ変換/文節カタカナ変換	[KP2]
半角カナ変換	[KP6]
全角変換	[KP3]
半角変換	[KP9]
記号変換/コード入力	[KP8]
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	[KP5]
前文節移動	[PF1] [KP5]
文節縮小	[KP4]
文節拡大	[PF1] [KP4]
文節前候補	[PF1] [KP7]
全文確定	—
文節確定	—
変換取消/無変換	[KP0]

¹[KP0]~[KP9]は数字キーパッドの[0]~[9]を表します。
[PF1] [KP6]は[PF1]を押した後に[KP6]を押すことを示します。

²'はキーボードの左上のキーです。

A.2 日本語入力の変換キー

表 A-5 TARO 変換キー定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	<input type="text" value="スペース"/>
漢字候補一覧 ²	<input type="text" value="Ctrl+'"/>
ひらがな変換/文節ひらがな変換	<input type="text" value="F11"/>
カタカナ変換/文節カタカナ変換	<input type="text" value="F12"/>
全角変換 ³	<input type="text" value="F14"/>
半角変換 ³	<input type="text" value="F13"/>
記号変換/コード入力	<input type="text" value="Ctrl+]"/>
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	<input type="text" value="□"/>
前文節移動	—
文節縮小	<input type="text" value="□"/>
文節拡大	<input type="text" value="□"/>
文節前候補	<input type="text" value="□"/>
全文確定	<input type="text" value="Return"/>
文節確定	<input type="text" value="□"/>
変換取消 ⁴	<input type="text" value="<X"/>

¹はキーを押しながらかキーを押すことを示します。

²はキーボードの左上のキーです。

³漢字 / カタカナ / ひらがな変換を行った後に全角 / 半角変換を行うことはできません。この場合は、変換取消を行った後に全角 / 半角変換を行ってください。

⁴TARO 変換キー定義には無変換キーはありません。

表 A-6 CTRL 変換キ一定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	Ctrl+K
漢字候補一覧 ²	Ctrl+'
ひらがな変換/文節ひらがな変換	Ctrl+G
カタカナ変換/文節カタカナ変換	Ctrl+N
半角カナ変換	Ctrl+H
全角変換	Ctrl+E
半角変換	Ctrl+T
記号変換/コード入力	Ctrl+F
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	Ctrl+Pr
前文節移動	Ctrl+Pl
文節縮小	Ctrl+A
文節拡大	Ctrl+X
文節前候補	Ctrl+L
全文確定	—
文節確定	—
変換取消/無変換	Ctrl+B

¹ Ctrl+K は Ctrl キーを押しながら K キーを押すことを示します。

² ' はキーボードの左上のキーです。

A.2 日本語入力の変換キー

A.2.1 変換キ一定義の変更

注意

日本語 DECwindows Motif では、特に何もしない限り、JVMS 変換キ一定義を使用します。

日本語 DECwindows Motif のアプリケーションで使用する変換キ一定義はつぎの方法で変更することができます。

ここでは、EVEJ キーを使うように設定してみます。

- 環境変数 IM_PROFILE をつぎのように定義する

```
% setenv IM_PROFILE im_profile_evej (csh を使用している場合)
$ IM_PROFILE=im_profile_evej
$ export IM_PROFILE (shまたはkshを使用している場合)
```

JVMS キー、TARO キー、CTRL キー、KEYPAD キーを使う場合は、上の例の im_profile_evej をそれぞれ次のように変更します。

- JVMS キー: im_profile_jvms
- TARO キー: im_profile_taro
- CTRL キー: im_profile_ctrl
- KEYPAD キー: im_profile_keypad

この定義をユーザの.cshrc (sh を使用している場合は.profile) に記述しておくこと、以後のセッションで選択したキ一定義を使うことができます。

新しいキ一定義を使用するには、アプリケーションを再起動してください。

A.3 変換規則

本節では、変換に関する次の規則について説明します。

- ローマ字かな変換（第 A.3.1 項）
読みをローマ字で入力する際のローマ字とかなの対応を示します。
- 特殊文字変換（第 A.3.2 項）
漢字変換によって、1 文字の記号を特殊文字に変換する際の記号と特殊文字の対応を示します。
- 記号変換（第 A.3.3 項）
記号変換によって、1 ~ 3 文字の英数記号を特殊文字に変換する際の英数記号と特殊文字の対応を示します。
- コード入力（第 A.3.4 項）
記号変換によって、漢字コードから漢字に変換する方法について説明します。

A.3 変換規則

A.3.1 ローマ字かな変換対応表

ローマ字					ひらがな				
a	i	u	e	o	あ	い	う	え	お
ka	ki	ku	ke	ko	か	き	く	け	こ
qa	qi	qu	qe	qo	あ	い	う	え	お
sa	si	su	se	so	さ	し	す	せ	そ
ta	ti	tu	te	to	た	ち	つ	て	と
na	ni	nu	ne	no	な	に	ぬ	ね	の
ha	hi	hu	he	ho	は	ひ	ふ	へ	ほ
fa	fi	fu	fe	fo	あ	い	ふ	え	お
ma	mi	mu	me	mo	ま	み	む	め	も
ya	yi	yu	ye	yo	や	い	ゆ	え	よ
ra	ri	ru	re	ro	ら	り	る	れ	ろ
la	li	lu	le	lo	ら	り	る	れ	ろ
wa	wi	wu	we	wo	わ	ゐ	う	ゑ	を
n					ん				
xa	xi	xu	xe	xo	あ	い	う	え	お
xka			xke		か			け	
		xtu					つ		
		xtsu					つ		
xwa		xwu			わ		う		
xya	xyi	xyu	xye	xyo	や	い	ゆ	え	よ
ga	gi	gu	ge	go	が	い	ぐ	げ	ご
za	zi	zu	ze	zo	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
ja	ji	ju	je	jo	じゃ	じ	じゅ	じえ	じよ
da	di	du	de	do	だ	ぢ	ぢゅ	ぢえ	ぢよ
ba	bi	bu	be	bo	ば	び	ぶ	べ	ぼ
pa	pi	pu	pe	po	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
va	vi	vu	ve	vo	ゎ	ゐ	ゐゅ	ゐえ	ゐよ
kya	kyi	kyu	kye	kyo	きゃ	き	きゅ	きえ	きよ
gya	gyi	gyu	gye	gyo	ぐゃ	ぎ	ぎゅ	ぎえ	ぎよ
kwa	kwi	kwu	kwe	kwo	くわ	くい	くゅ	くえ	くよ
sya	syi	syu	sye	syo	しゃ	しい	しゅ	しえ	しよ
sha	shi	shu	she	sho	ししゃ	しい	しゅ	しえ	しよ
tya	tyi	tyu	tye	tyo	ちゃ	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
cya	cyi	cyu	cye	cyo	ちゃ	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
cha	chi	chu	che	cho	ちゃ	ち	ちゅ	ちえ	ちよ
tza	tzi	tzu	tze	tzo	つあ	つい	つゅ	つえ	つよ
tha	thi	thu	the	tho	てゃ	てい	てゅ	てえ	てよ
nya	nyi	nyu	nye	nyo	にゃ	にい	にゅ	にえ	によ
hya	hyi	hyu	hye	hyo	ひゃ	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ
fya	fyi	fyu	fye	fyo	ふゃ	ふい	ふゅ	ふえ	ふよ
mya	myi	myu	mye	myo	みゃ	みい	みゅ	みえ	みよ
rya	ryi	ryu	rye	ryo	りゃ	りい	りゅ	りえ	りよ
lyā	lyi	lyu	lye	lyo	りゃ	りい	りゅ	りえ	りよ
gya	gyi	gyu	gye	gyo	ぎゃ	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎよ
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo	ぐわ	ぐい	ぐゅ	ぐえ	ぐよ
zya	zyi	zyu	zye	zyo	じゃ	じい	じゅ	じえ	じよ
jya	jyi	jyu	jye	jyo	じゃ	じい	じゅ	じえ	じよ
dya	dyi	dyu	dye	dyo	ぢゃ	ぢい	ぢゅ	ぢえ	ぢよ
dha	dhi	dhu	dhe	dho	でゃ	でい	でゅ	でえ	でよ
bya	byi	byu	bye	byo	びゃ	びい	びゅ	びえ	びよ
pya	pyi	pyu	pye	pyo	ぴゃ	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴよ

補足

- ・ローマ字は大文字でも小文字でもかまいません。
- ・促音(“っ”)を入力する場合は、次にくる子音を重ねます。
- ・“ん”の次に母音があるときには“'”(アポストロフィ)を間にいれます。

A.3.2 特殊文字変換対応表

変換前	変換後
; (セミコロン)	, (読点)
. (ピリオド)	。(句点)
+ (正符号)	・ (中点)
- (負符号, ハイフン)	ー (長音記号)
¥ (円記号)	\ (逆斜線)
' (左一重引用符)	' (左一重引用符)
- (オーバーライン)	~ (波ダッシュ)
@ (単価記号)	② (二重丸)
* (星印)	米 (米印)
= (等号)	≡ (げた記号)
[(始め大カッコ)	「 (始めかぎ括弧)
] (終り大カッコ)	」 (終りかぎ括弧)
< (不等号, より小)	⌋ (始め山括弧)
> (不等号, より大)	⌋ (終り山括弧)

A.3.3 記号変換対応表

1 文字変換

変換前 : 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 -
 変換後 :

2 文字変換

変換前 : F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F0 F-
 変換後 :

変換前 : T1 T2 T3 T4 T5 T6 T7 T8 T9 T0 T-
 変換後 :

変換前 : Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y0 Y-
 変換後 :

変換前 : ,, ^I /] /^ || ,, .. `` ([]) << >> [[]]
 変換後 : " 全 々 〃 … “ [] 《 》 『 』

変換前 : [()] +- XX :- =/ <= >= 00 .; 0> 0+ /_ |_
 変換後 : 【 】 ± × ÷

変換前 : ~- 0) ~V == =: *< *> V~ CC OC ;. S1 S2 (-
 変換後 :

A.4 キーボードの「カナモード」の使用

DECwindows Motif では、カナ・キーボードをサポートしています。インストール後の設定や、セッション・マネージャのキーボード設定で日本語キーボード (japanese lk201aj, japanese lk401aj 等) が設定してある場合、カナ・キーボードが使えます。

カナ・キーボードは、カナを入力できる「カナ・モード」と、アルファベットや数字を入力できる「アスキー・モード」の2つのモードを切り替えて使用することができます。DECwindows Motif を起動した時点では、アスキー・モードになっています。

LK201-AJ の場合は、`[カナ+スペース]`を押す¹ことによって、アスキー・モードとカナ・モードが切り替わります。

DEC2000 の PCXAJ-AA では、右側の`[Alt]`キーを押すことによって、アスキー・モードとカナ・モードが切り替わります (ただし、日本語 OpenVMS AXP V1.5-1H1 のキットから提供されているキーマップでは、“右側の`[Ctrl]`”です)。

他の日本語キーボードの場合は、`[カナ]`を押すことによって、アスキー・モードとカナ・モードが切り替わります。

北アメリカ・キーボードでは、`[カナ]`キーは`[Compose]`または`[Comp]`となっています。

LK201-AJ, LK401-BJ, LK421-JJ 等、カナ・ランプのあるキーボードでは、キーボードがカナ状態にはいった時、キーボード・インディケータによりカナ・ランプが点灯します。

LK401-AJ, LK421-AJ, PCXAJ-AA 等カナ・ランプのないキーボードの場合は、キーボード・インディケータのウィンドウを表示して、カナの状態を見る事ができます。

セッション・マネージャのメニュー・ダイアログで、キーボード・インディケータの定義は次のようになっています。

```
@vue$library:vue$kb_indicator
```

キーボード・インディケータのウィンドウを表示するには、これを以下のように変更して、セッションを起動し直してください。

```
@vue$library:vue$kb_indicator "-map"
```

¹ `[カナ]`キーを押しながら`[スペース]`キーを押す。

² PCXAJ-AA には`[Alt]`キー、`[Ctrl]`キーが2つあります。

A.5 新しい日本語キーボードのサポート

DECwindow Motif では、**変換**や**無変換**などの日本語入力専用のキーを持つ次の新しい日本語キーボードをサポートします。

- LK401-JJ (JIS 配列)
- LK401-BJ (ANSI 配列)
- LK421-JJ (JIS 配列)
- PCXAJ-AA (DEC2000 用)

上記の新しい日本語キーボードを使用するためには、それが省略時キーボードとしてインストール時に設定されているか、またはセッションのキーボードに設定されている必要があります。セッションでキーボードを設定するには、セッション・マネージャの「オプション」メニューから「キーボード...」を選択して表示されるダイアログ・ボックスで新しい日本語キーボードに対応したキーボード・タイプを選択してください。表 A-7 内の対応するキーボード・タイプを選択し、「了解」ボタンをクリックします。

表 A-7 新しい日本語キーボードのキーボード・タイプ

モデル	設定するキーボード・タイプ
LK401-JJ	japanese lk 401 jj
LK401-BJ	japanese lk 401 bj
LK421-JJ	japanese lk 421 jj
PCXAJ-AA	japanese pcxaj aa

新しい日本語キーボードでは、変換キー定義 (JVMS/EVEJ/KEYPAD) に応じたキー操作の他に、表 A-8 に示すキー操作を利用できます。

注意

変換キー定義が TARO の場合、表 A-8 に示すキー操作を使用することはできません。

表 A-8 新しい日本語キーボードの変換キー定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	変換
漢字候補一覧	Alt+ 変換
ひらがな変換/文節ひらがな変換	ひらがな
全角カタカナ変換/文節全角カタカナ変換	カタカナ ²
全角変換	Alt+ ひらがな
半角カタカナ変換/文節半角カタカナ変換	Ctrl+ ひらがな または Ctrl+Shift+ ひらがな
半角変換	Ctrl+Alt+ ひらがな
記号変換/コード入力	Alt+ 無変換
次文節移動	Shift+
前文節移動	Shift+
文節縮小	Shift+
文節拡大	Shift+
文節前候補	前候補 ³
無変換	無変換
変換取消	Shift+ 無変換

¹ Ctrl+ ひらがな はCtrlキーを押しながら ひらがな キーを押すことを示します。

² カタカナ はShiftキーを押しながら カタカナ/ひらがな キーを押します。

³ 前候補 はShiftキーを押しながら 前候補/変換 キーを押します。

A.6 PCXAJ-AA キーボードでのキーの合成

PCXAJ-AA 日本語キーボードにおける[F13]~[F20]、[Do]、[Help]等の合成は、PCXAL-AA 英語キーボードとは多少異なります。PCXAL-AA では右側の[Alt]を押しながら同時に他のキーを押すことによって合成されますが、PCXAJ-AA では右側の[Alt]を押してカナ・モードに設定した状態で他のキーを押すとキーが合成されます。PCXAJ-AA で再度右側の[Alt]キーを押すとカナ・モードが解除されます（標準版および日本語 OpenVMS AXP V1.5-1H1 で提供されているキーマップでは、右[Alt]のかわりに右[Ctrl]を用います）。

表 A-9 にいくつかの例を示します。

表 A-9 PCXAJ-AA と PCXAL-AA でのキー合成の違い

	PCXAL-AA	PCXAJ-AA
F13	右 Alt+F3	カナ・モードで F3
Do	右 Alt+ScrollLook	カナ・モードで ScrollLook

(次ページに続く)

A.6 PCXAJ-AA キーボードでのキーの合成

表 A-9 (続き) PCXAJ-AA と PCXAL-AA でのキー合成の違い

	PCXAL-AA	PCXAJ-AA
Help	右 Alt+Print	カナ・モードで Print

C

CDA ビューア	6-11
PostScript ファイル	6-13
ウィンドウ	6-11
起動	6-11
キーワード	6-12
その他の機能	6-13
ファイルのオープン	6-12
ファイルの表示	6-12
ファイル・フォーマット	6-12
CTRL 変換キー定義	A-11

D

DECwindows 環境のカスタマイズ	3-4
----------------------	-----

E

EVEJ キー	A-6
EVEJ 変換キー定義	A-7

J

JVMS キー	A-6
JVMS 変換キー定義	A-7

K

KEYPAD 変換キー定義	A-8
KEYPAD キー	A-6

M

MB1	2-1
MB2	2-1
MB3	2-1

T

TARO キー	A-6
TARO 変換キー定義	A-9

ア

アイコン	2-13
ウィンドウへの拡大	2-16
復元	2-16
新しい日本語キーボード	A-18
新しい日本語キーボードの変換キー定義	A-18
アプリケーション	6-1
アイコン化	2-15
アプリケーション間での移動	2-14
起動	3-1
終了	6-1

イ

印刷設定	2-28
------	------

ウ

ウィンドウ	
「ウィンドウ」も参照	
移動	2-14
ウィンドウ間でのテキストの移動	2-25
ウィンドウ間でのテキストの複写	2-24
構成要素	2-12
最小化	2-15
サイズ変更	2-15
最大化	2-16
縮小	2-15
選択	2-14
定義	1-1
ドラッグ	2-14
入力	2-14
ウィンドウ・フレーム	2-12
ウィンドウ・タイトル	2-13
ウィンドウ・マネージャ	
定義	1-2
ウィンドウ・メニュー・ボタン	2-13

オ

オプション・メニュー	2-10
------------	------

カ

カード管理	6-8
ウィンドウ	6-9
カード	6-8
カードの作成	6-10
カード・ファイル	6-8
カード・ファイルのオープン	6-9
カード・ファイルの作成	6-9
起動	6-8
その他の機能	6-10
カナ・モード	A-17
画面印刷	6-32
ウィンドウ	6-32
画面全体を撮る	6-33
起動	6-32
その他の機能	6-33
画面上のオブジェクト	
ヘルプの使い方	2-5
ヘルプ表示	2-4
カレンダー	6-6
起動	6-6
その他の機能	6-8
月/日/年表示の選択	6-7
月表示	6-6
年表示	6-6
日表示	6-6, 6-7
予定の登録	6-7
漢字端末エミュレータ	6-14
起動	6-14
その他の機能	6-15
標準版と日本語版の相違	6-16

キ

記号変換対応表	A-15
コード入力	A-16
キーボード	
各国語の設定	3-5
キーボード・タイプ	
変更	3-4
休止セッション画面	3-3
強調表示	
調整	5-6
ハイパーアプリケーション・オブジェクト	5-3

ク

クイックコピー	
テキストの複写	2-25
クリック	
マウスを使用して	2-2

ケ

言語	
設定	3-6

サ

最小化ボタン	2-13
サイズ変更カーソル	2-15
サイズ変更枠	2-13, 2-15
最大化ボタン	2-13
使用	2-16
作業領域	2-10, 2-14
サブメニュー	2-11
サブメニュー・アイコン	2-11

シ

シフト・クリック	2-2
省略時のオプション	2-20
選択	2-20
「処理中」ダイアログ・ボックス	3-2

ス

スクロール	2-22
スクロール・バー	2-14
使用	2-22
スクロール領域	2-23
スケール	2-19
ダイアログ・ボックス内部での使用	2-20
ステップ矢印	2-23
スライダ	2-23

セ

セッション	
起動	2-3
休止	3-3
終了	3-3
セッション言語	
設定	3-6
セッションの起動	2-3
セッション・マネージャ	
DECwindows 環境のカスタマイズ	3-4
定義	1-2
の図	2-3
メニュー・バー	2-3
設定値	
ダイアログ・ボックス中での変更	2-20
保管	2-20
選択	
定義	2-14

ソ

ソース 5-3

タ

ダイアログ・ボックス 2-18
移動 2-20
構成要素 2-18
タイトル・バー 2-13
ウィンドウの移動 2-14
ターゲット 5-3
タスク出力ウィンドウ 3-2
タスク状態
セッション・マネージャで 3-2
ファイルビューで 3-2
ダブルクリック
マウスを使用して 2-2
端末エミュレータ 6-14

チ

チェック・ボタン 2-19
使用 2-20
の図 2-18

ツ

追加トピック・リスト
の図 2-4
追加トピック・リスト
定義 2-5

テ

ディレクトリ操作
ファイルビューを使用した 4-5
テキスト
移動 2-25
選択 2-24
複写 2-24
編集 2-23
テキスト入力領域
内部での移動 2-20
テキスト入力領域 2-19
入力 2-19
「適用」ボタン 2-20
電球形アイコン 5-2
電子メール 6-22
新しいメッセージの表示 6-25
起動 6-22
その他の機能 6-26
ドロアとフォルダ 6-23
古いメッセージの表示 6-26
メイン・ウィンドウ 6-23
「メッセージ作成」ウィンドウ 6-23

電子メール (続き)

メッセージの作成 6-23
メッセージの選択 6-25
メッセージの送信 6-25
メッセージの表示 6-25
「メッセージ表示」ウィンドウ 6-25
電卓 6-5
アキュムレータ画面 6-5
起動 6-5
8進モード 6-6
16進モード 6-6
その他の機能 6-6
マウスまたはキーボードで使用 6-5
メモリ画面 6-5

ト

特殊文字 2-27
特殊文字変換対応表 A-15
時計 6-13
起動 6-13
24時間形式 6-14
その他の機能 6-14
ドラッグ 2-2
ドラッグ・ドロップ 2-3
実現 2-26
「取消」ボタン 2-20

ニ

日本語入力機能 A-1
日本語入力の変換キー A-6
入力フォーカス
ウィンドウに対する与え方 2-14
定義 2-14

ノ

ノートパッド 6-27
起動 6-27

ハ

ハイパーアプリケーション
オブジェクト 5-2
機能 5-1
定義 5-1
「リンク」メニュー 5-1
パズル 6-33
遊び方 6-34
起動 6-33
パスワード 2-3

フ

ファイル	
印刷	2-28
ファイルの印刷	2-28
アプリケーションで作成されたファイル	
ル	2-28
ファイルビュー	4-1
起動	3-1
「更新」ボタン	4-2
サブディレクトリ一覧	4-2
図	4-1
「選択条件」入力領域	4-2
定義	1-2
ディレクトリ	4-5
「ディレクトリ」入力領域	4-2
内のファイルの選択	4-3
ファイル選択メニュー・バー	4-2
ファイル操作	4-4
ファイル・リスト	4-2
ファイル・リストの更新	4-2
ブックリーダー	6-1
起動	6-1
その他の機能	6-4
トピック・ウィンドウ	6-4
ナビゲーション・ウィンドウ	6-2
ナビゲーション・ウィンドウ内の矢印	6-3
本のオープン	6-2
ライブラリ	6-2
ライブラリ・ウィンドウ	6-2
プッシュ・ボタン	2-20
定義	2-9
の図	2-18
プリント・キュー	
キューへのファイルの送出	2-28
プルダウン・メニュー	2-8
押す(プレス)	
マウスを使用して	2-2

へ

ペイント	6-28
ウィンドウ	6-28
絵の保管	6-31
起動	6-28
その他の機能	6-31
ツール	6-29
ツールの選択	6-29
ツール・パレット	6-29
ヘルプ	
オブジェクトに関するヘルプの求め方	2-5
オブジェクトの	2-4
概要トピック	2-4
起動	2-4
「コンテキスト」	2-4
コンテキスト・ヘルプ	2-5
終了	2-7

ヘルプ(続き)

製品情報トピック	2-5
中での移動	2-6
中のトピック・タイトルの一覧	2-6
トピックの選択	2-6
ヘルプ・ウィンドウ	
の図	2-4
ヘルプ・トピック	
定義	2-5
の図	2-4
ヘルプ・ボタン	
定義	2-5
変換規則	A-13
変換キー定義の変更	A-12

ホ

ポインタ	2-2
形状	2-2
指す(ポイント)	
マウスを使用して	2-2
ボタン	
「プッシュ・ボタン」を参照	
「マウス・ボタン」を参照	
ポップアップ・メニュー	2-9

マ

マウス	
基礎知識	2-1
使い方	2-1
ボタン	2-1
マット	2-14

メ

メッセージ・ウィンドウ	3-2
起動	3-2
メニュー	2-7
メニュー・バー	2-13

モ

文字	
特殊なキーボードの作成	2-27

ラ

ラジオ・ボタン	2-19
使用	2-20
の図	2-18

リ

リスト・ボックス	2-21
選択	2-21
「了解」ボタン	2-20
リンク	
強調表示	5-3
作成	5-3
追跡	5-3
「リンク」ダイアログ・ボックス	5-4
「リンク」メニュー	5-1
リンクワークス・セットアップ	5-1
リンクワークス・マネージャ	6-17
環境ウィンドウ	6-17
環境へのオブジェクトの複写	6-20
環境/リンクベース・ウィンドウ	6-18

起動	6-17
その他の機能	6-22
パス	6-20
リンクベース・ウィンドウ	6-18
リンクベース・オブジェクトのグループ分 け	6-19
リンクベース・オブジェクトの作成	6-19
リンクベースの作成	6-19

ル

ルート・メニュー	
定義	1-2

ロ

ローマ字かな変換対応表	A-14
-------------	------

日本語 DECwindows Motif for OpenVMS 操作ガイド

1994 年 6 月 発行

コンパックコンピュータ株式会社

〒140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)

AA-PQGXB-TE